

ケニア共和国東部州ムインギ県ムイ郡
における
幼児育成事業実施可能性調査報告書

2002年03月

特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会
(CanDo)

本調査は平成13年度国際開発協力関係民間公益団体補助金（事業促進支援制度）を受けて行なったものである。

目次

0 . はじめに	1
1 . 調査の目的と概要	2
1 - 1 . 調査企画の背景	2
1 - 2 . 調査の目的	3
1 - 3 . 調査団の構成	3
1 - 3 - 1 . 石井優子	3
1 - 3 - 2 . 永岡宏昌	3
1 - 3 - 3 . 嶋本恭子	3
1 - 3 - 4 . エバンス・カラングウ	4
1 - 3 - 5 . カンダリ・ムロンジア	4
1 - 4 . 調査の場所	4
2 . 幼児育成について	5
2 - 1 . ユニセフの定義・視点	5
2 - 2 . 世界銀行の調査	5
2 - 3 . ケニア政府の方針	6
2 - 4 . 本調査の方針	7
3 . ムイギ県ヌー郡・ムイ郡の概要	8
3 - 1 . 地勢と行政区分	8
3 - 2 . 気象	11
3 - 3 . 住民と社会	12
3 - 4 . 住民の生業形態	12
3 - 5 . 社会的条件	12
3 - 5 - 1 . 行政機構	12
3 - 5 - 2 . 開発協力団体	13
3 - 5 - 3 . 住民自助グループ	13
4 . 子どもをとりまく状況	15
4 - 1 . 教育	15
4 - 1 - 1 . 小学校	15
4 - 1 - 2 . 幼稚園	16
4 - 2 . 保健	17
4 - 2 - 1 . 子どもの健康	17
4 - 2 - 2 . 保健医療制度・保健プロジェクト	18
5 . フィールド調査	20
5 - 1 . フィールド調査の方法	20
5 - 1 - 1 . 調査の同意	20
5 - 1 - 2 . 調査対象幼稚園の選定	20
5 - 1 - 3 . 調査方法	20
5 - 1 - 4 . 調査内容	21
5 - 2 . フィールド調査報告	21
5 - 2 - 1 . 幼稚園調査	21
5 - 2 - 1 - 1 . マルキ幼稚園	21
5 - 2 - 1 - 2 . カリアコ幼稚園	23
5 - 2 - 1 - 3 . キモンゴ幼稚園	25
5 - 2 - 1 - 4 . カテイコ幼稚園	28
5 - 2 - 1 - 5 . ンザマニ幼稚園	30
5 - 2 - 1 - 6 . ムニユニ幼稚園	32

5 - 2 - 2 . 幼稚園調査の分析	34
5 - 2 - 2 - 1 . 保育内容.....	34
5 - 2 - 2 - 2 . 教材.....	37
5 - 2 - 2 - 3 . 食事.....	38
5 - 2 - 2 - 4 . 保健.....	38
5 - 2 - 2 - 5 . 施設・備品.....	39
5 - 2 - 2 - 6 . 幼稚園教員.....	39
5 - 2 - 2 - 7 . 保護者との関係	40
5 - 2 - 2 - 8 . 小学校との関係	40
5 - 2 - 3 . 家庭調査の分析.....	41
5 - 2 - 3 - 1 . 家庭調査の概要	41
5 - 2 - 3 - 2 . 家族構成.....	41
5 - 2 - 3 - 3 . 水について.....	41
5 - 2 - 3 - 4 . 食事.....	42
5 - 2 - 3 - 5 . 保護者の幼稚園観.....	42
6 . 幼児育成事業の形成について	44
6 - 1 . ムイ郡における地域総合開発事業計画	44
6 - 2 . 幼児育成事業の枠組み.....	44
6 - 2 - 1 . 幼稚園教員への動機づけ.....	44
6 - 2 - 2 . 幼稚園教員間の連携の強化	45
6 - 2 - 3 . 幼稚園の役割の再定義	45
6 - 2 - 4 . 幼稚園教員の専門性の向上	45
6 - 3 . 幼児育成事業計画.....	46
7 . 参考文献	47

添付資料

- 1 . 調査日誌
- 2 . 写真資料

図一覧

図 1 : ケニア共和国地図.....	9
図 2 : ムインギ県ヌー郡・ムイ郡地図.....	10
図 3 : ヌー郡・ムイ郡周辺道路図.....	11

表一覧

表 1 : ムインギ県ヌー郡・ムイ郡区別人口および面積.....	11
----------------------------------	----

0 . はじめに

CanDo-アフリカ地域開発市民の会は、アフリカにおいて、地域の人たちが、当会と共に開発活動に参加することによって、自らの力で、自ら規定する「豊かさ」を実現できるよう協力することをめざした市民による開発協力団体である。当会は、1997年10月よりケニア共和国において事業を開始し、1998年1月に東京で任意団体として正式に設立し、1999年11月17日に特定非営利活動法人として法人格を取得した。

会の創設以来、活動の中心としている対象地域が、半乾燥地域であり貧困地域であるケニア共和国ムインギ県ヌー郡およびムイ郡である。当会は、地域住民の主体的な参加を重視しながら、地域の貧困問題を解決し、「より豊かな社会」を実現する総合的な開発プログラムを目指し、教育・保健・環境保全の分野で事業を実施してきた。これら事業に共通する課題としては、当会の事業をとおして地域住民のエンパワメントにつなげていくこと、また、それぞれの分野を関連づけることによって相乗効果を生むことを期待している。

多くの子どもが、栄養不良で脆弱な健康状態にあり、かつ、貧困を反映してか小学校の成績が優れないヌー郡およびムイ郡において、当会が実施する地域総合開発事業のなかに、新たに幼稚園を拠点とした幼児育成事業を形成することが、長期的にみて地域の開発の基盤を整備することにつながるのではないかと、この視点にたって、2001年8月から11月まで幼児育成専門家を対象地域に派遣して、幼稚園での実際の活動への参与観察を中心に事業実施可能性調査をおこなった。

本調査は、外務省による平成13年度国際開発関係民間公益団体補助金（通称：NGO事業補助金）の事業促進支援制度・プロジェクト企画調査支援を受けて実施したものである。

1. 調査の目的と概要

1 - 1 . 調査企画の背景

ケニア共和国の首都ナイロビでは、人口の半数近くとも、100万人規模ともいわれる人々が、貧困のため生活環境が劣悪な都市スラムに滞留している。また、その生活が厳しいにも拘わらず、ケニアの村落部からのスラムへの人口の流入は止まらない、といわれている。

CanDo-アフリカ地域開発市民の会は、1997年10月より、ケニアにおいて、地域住民とともに貧困状態を克服し、豊かな地域社会を築く地域総合開発プログラムを実施する事業地を探していた。この事業地を選定するに際して、ナイロビの都市スラムの生活環境が劣悪であるにも拘わらず、村落部からの人口流入が続いている事実に着目して、都市スラムの貧困の背後に、さらに深刻な村落部の貧困問題があると想定し、村落部での実施を検討した。

ナイロビへの人口流出が著しいといわれる東部州は、隣接する北東部州などとともに、近年、頻繁な干ばつに見舞われているため、政府から干ばつ被災復興地域に指定されて、国際機関の協力による食糧援助などを受けている。その東部州なかで、ムインギ県は、ナイロビから比較的遠い県であり、近い県に比べて国際機関やNGOの活動が少ないこと。また、同県での5歳未満児における慢性栄養失調の出現率は49.7%¹となっており、ケニア平均の34%²を大幅に上回るものであり、この指標からも深刻な貧困状況が推定されること。さらに、教育の指標である小学校第8年生卒業時に実施される国家統一初等教育試験(Kenya Certificate of Primary Education: KCPE)の県別平均点をみると、1996年度は全国64県のうち47位と下位に属する成績であり、全般的に教育熱心なケニアのなかで、例外といえないムインギ県の成績が下位に属することも、貧困状況のひとつの現われと推定できること。このような観点から、当会の活動地をムインギ県とした。しかし、ムインギ県は広域であるため、当会が全域を対象に事業展開をすることは現実的でないと判断し、1997年11月に県内でも貧困地域であるヌー郡・ムイ郡³を実際の活動対象地域として選定した。

このヌー郡およびムイ郡は、半乾燥地に属し、ほとんどの住民が牧畜と天水農業に生計を依存しているが、社会基盤の開発から取り残され、さらに、たびたび深刻な干ばつにみまわれ、緊急食糧援助の対象となる貧困地域である。当会は、地域の住民が困難な生活状況を改善して、より「豊かな」生活を獲得していくためには、住民が、長期的な視野にもとづいて、主体的に教育・地域保健・環境保全などに取り組む総合的な開発が必要であると考えた。

その導入事業として、地域の小学校への教科書支援や住民参加による教室建設を実施してきた。この事業のなかで、地域住民が、子どもたちへの教育を、「子どもたちの未来を築くもの」と長期的な視野で位置づけて、教室建設に積極的に参加することが確認できた。また、環境保全については、これまで他の援助団体が食料供与によって住民参加を促がして植林活動を行ってきたため、住民が長期的な視野をもって環境活動に取組む基盤が形成されていないと判断し、小学校へ環境活動・教育を導入し、まず、地域の子どもたちから大人へ環境意識が広がることをめざして事業を開始した。さらに、地域保健については、保健情報やサービスの発信源となる診療所の機能強化や村の保健専門家である地域保健士(CHW)・伝統助産婦(TBA)のトレーニングが、地域住民のエンパワメントと便益につながるのか疑問が生じたため、まずは、地域の一般の出産適齢期にある女性を対象とした基礎保健トレーニングを開始し、保健情報・サービスの受け手の能力強化から取組むこととした。

¹ Mwandime, R. & Proell, E. (1995): pp.44

² UNICEF, The State of World's Children 1998: Table 2 (インターネットサイト <http://www.unicef.org> より)

³ 1999年5月に行政区分が変更され、旧来のムインギ県ヌー郡が、新たに東部のヌー郡と西部のムイ郡に分割された。

1 - 2 . 調査の目的

前述のとおり、当会のムインギ県ヌー郡・ムイ郡における開発協力事業は、地域住民の主体的な参加を重視しながら、地域の貧困問題を解決し、「より豊かな社会」を実現する総合的な開発プログラムを目指し、教育・保健・環境保全の分野で事業を実施している。これら事業に共通する課題としては、当会の事業をとおして地域住民のエンパワメントにつなげていくこと、また、それぞれの分野を関連づけることによって相乗効果を生むことを期待している。

そのなかで、新たに取り組みを検討する事業分野として、小学校就学前の教育という視点から教育分野であり、子どもの健康の視点からは保健分野である幼稚園を拠点とした幼児育成事業の事業形成の可能性を調査することとした。

1 - 3 . 調査団の構成

永岡宏昌が、調査全般にわたっての企画管理および報告についての責任をおった。ムイ郡でのフィールド調査は、保育専門家である石井優子がおこない、フィールド・ノートの作成と、当会へ幼児育成事業形成に関する助言および提言をおこなった。ナイロビにおいての教育省からの情報収集は、エバンズ・カランガウが担当した。ムイ郡の調査現場では、嶋本恭子が行政官や教育官並びに小学校・幼稚園との調査の調整をおこなった。また、ムイ郡での調査調整の補助ならびにカンバ語からスワヒリ語・英語への通訳などをカンダリ・ムロンジアがおこなった。

1 - 3 - 1 . 石井優子

当会役職： 理事（非常勤）
学歴： 光塩学園女子短期大学卒業
日本アフリカ文化交流協会スワヒリ語学院（ケニア）
職歴： 千歳市中央保育所・札幌創成保育所・札幌西野中央保育所
アフリカ教育基金の会ケニア事務所
青年海外協力隊（ニジェール）
専門： 保育士・幼稚園教諭・ネイチャーゲーム初級指導員
年齢： 34 歳

1 - 3 - 2 . 永岡宏昌

当会役職： 代表理事
学歴： 広島大学総合科学部地域文化コース卒業
オランダ国社会科学研究所（ISS）開発学修士
職歴： サヘルの会事務局長
アフリカ教育基金の会ケニア事務所代表
専門： 村落開発事業の調査・計画・運営
年齢： 41 歳

1 - 3 - 3 . 嶋本恭子

当会役職： ヌー郡・ムイ郡フィールドコーディネータ
学歴： 慶應義塾大学総合政策学部卒業

職歴： なし
専門： NGO 開発事業における事業管理
年齢： 26 歳

1 - 3 - 4 . エバンス・カラングウ

当会役職： ナイロビ事務所教育コーディネータ
学歴： シリバ教員養成専門学校卒業
職歴： アフリカ教育基金の会ケニア事務所
エンバカシ女子高校校長代行
専門： NGO による教育事業
年齢： 35 歳

1 - 3 - 5 . カンダリ・ムロンジア

当会役職： ムイ郡フィールドアシスタント
学歴： ウカンバ農業専門学校卒業
職歴： 農業・土壌保全ボランティア
専門： 地域開発活動
年齢： 35 歳

1 - 4 . 調査の場所

本調査は、現在、小学校への協力事業と診療所支援と母親への保健トレーニング、すなわち教育と保健の分野で事業を実施しているケニア共和国ムイ郡ムイ郡カリティニ区およびムイ区においてフィールド調査を行なった。また、ナイロビにおいて、教育省本省での情報ならびに関連する文献の収集を行なった。

2．幼児育成について

2 - 1．ユニセフの定義・視点

ユニセフは『2001 年世界子供白書』の副題を「幼い子どものケア」として、幼児育成を特集し、その重要性を指摘している。その定義は次のとおりである。

ECD (Early Childhood Development = 幼児開発の略)は出生時から 8 歳になるまでの子どもとその親や保護者のための政策とプログラムに関する包括的なアプローチを指し、子どもがもって生まれた認知的、情緒的、社会的、身体的能力を十分に伸ばす権利を守ることを目指す。ECD には乳幼児のニーズを満たすためのコミュニティを中心としたサービスが不可欠で、サービスは家庭とコミュニティでの保健、栄養、教育、水と環境衛生への配慮を含むものでなければならない。こうしたアプローチは幼い子どもの生存、成長、発達の権利を守り、強化する。⁴

さらに、ユニセフは、この『2001 年世界子供白書』で特に 0～3 歳という子供の成長の最も早い時期に焦点をあて、その時期の重要性を次のとおり報告している。

生まれた瞬間やその後の数ヶ月から数年間は、幼い子どもが暮らしのなかで経験する接触、動き、情緒のすべてが脳内で爆発的な電氣的、化学的活動に変換され、脳の何十億もの細胞がネットワークに組織され、何兆ものシナプスで結ばれる。子ども時代の初期には親や家族やその他の成人との間の経験や対話が子どもの脳の発達に影響し、十分な栄養や健康やきれいな水などの要因と同じくらい大きな影響力をもつ。この期間に子どもがどのように発達するかがのちの学校での学業の成否を決め、青年期や成人期の性格を左右する。

乳児は抱かれ、触れられ、愛撫されると、よく成長する。子どもに応える暖かいケアがある種の保護機能を果たして、乳児がのちの暮らしで受けるストレスの影響に対してある程度の「免疫」になるようである。だが幼いときの脳の柔軟性はまた、必要なケアを受けられず、飢餓、虐待、放置を経験すると、脳の発達が損なわれ得ることを意味する。

出生前や出生後の数ヶ月から数年間の子どもの暮らしに起こることの影響は生涯にわたって続く。子どもが学校や生活全体を通じてどのように学び、人間関係を形成するかを決める、信頼感、好奇心、志向性、自制心、関係の構築、意思疎通や協力の能力など、情緒的知能の主な構成要素のすべてが親や保育施設などの教員や保護者から受ける早期のケアに左右される。もちろん子どもが健康や発達を促進し、新しい技能を学び、恐怖を克服し、固定観念を変えるのに、遅すぎるということはない。だが、子どもは適切なスタートを切ることができないと、遅れを取り戻したり、もって生まれた可能性を最大限に発揮するのが非常にむずかしくなる。⁵

このように、ユニセフは、3 歳未満児の心と身体の健全な発達が重要であるとしており、これらを村落部での社会開発のなかで位置づけると、プライマリ・ヘルスケアなど保健分野が事業展開の中心となるであろう。

2 - 2．世界銀行の調査

世界銀行は、1997 年に教育省幼児教育センターに委託して、ケニアにおける幼児育成の実態調査を実施した。私立の幼稚園へのアクセスの機会がない村落部を中心に、主に地域住民の努力によって公立幼稚園の設立と運営がなされ、国内の約 19,000 の公立幼稚園で 3 歳から 6 歳までの 100 万人以上の幼児育成が実施されていることを評価する一方、幼稚園教員への専門的トレーニングの遅れ、同スタッフへの低額かつ不安定な報酬の支払、小学校との連携の希薄さ、貧困層がサービスを受けない現況、3 歳未満児の育成施策がないこと、政府歳出の極端な少なさなどの問題点を指摘している。適切な幼児

⁴ ユニセフ(2000): pp.15

⁵ 同上: pp.11, 13

育成は、ケニアの人的資本の形成にとって重要であり、子どもの教育を受容する能力の向上にとって重要であり、幼稚園での適切な精神的・身体的な発達が適切な学齢での小学校就学と学業成績の向上につながる」と分析している。1993年の例をとると、ケニアの小学校留年生徒数が70万人にものぼり、留年による政府と家庭が追加的に負担した費用が35百万米ドルにも達しており、幼児育成の強化が、これら費用の軽減に貢献すると分析している。⁶

そして、ケニアへ融資する幼児育成事業の構成として、幼稚園教員の能力向上と幼児育成を支える地域社会の組織能力強化を主要な事業要素とし、副次的な試験的な事業として地域社会への資金助成、子どもたちへの栄養および保健介入、子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行のためにカリキュラムおよび教授法を調整することをあげている。⁷

2 - 3 . ケニア政府の方針

現在、ケニア政府は、前述の世界銀行融資を受けて、教育省を実施機関とし、0～8歳のケニアの子どもを対象とした“Early Childhood Development (ECD) Programme”すなわち幼児育成プログラムを実施している。このプログラムの上位目標は、年少の子どもの生活の質を向上させることと、より多くの子どもたち、特にスラムや辺境地などの社会的弱者の子どもが幼児育成サービスを楽しむことができるようにすることとしている。そして、プログラムの目的として以下の7項目をあげている。⁸

- (1) 遊びをとおして子どもが生活を楽しみ、学べること
- (2) 効果的な生活のための良い習慣を形成すること
- (3) 子どもの精神と身体の発育を促すこと
- (4) 文化的な背景ならびに習慣を尊重すること
- (5) 子どもの道徳心の発達を育成すること
- (6) 子どもの想像力、自立および思考力を発達させること
- (7) 小学校生活によりよく適応するための子どもの体験を強化させること

上記のプログラム目的を達成するために、上述の世界銀行の調査に沿った形で、主要な事業として、幼稚園教員の能力向上をはかるために2年間・5週間・2週間のトレーニングコースを実施することと、地域社会の組織能力を強化するために育児法トレーニング・地域社会の動員と意識化・幼稚園運営委員会へのトレーニングを実施することとしている。いくつかの県で試験的に実施して、十分な成功が確認できれば全国レベルで展開するパイロット事業として、保健および栄養介入、地域社会への資金供与および、子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行のためにカリキュラムおよび教授法の調整をあげている。また、この幼児育成プログラムの特徴として、NGOと政府の協力をあげている。現在、5団体⁹が計20県で事業実施することで政府と契約を結んでいる、とのことである。なお、これらの団体は、事業実施ばかりでなく事業経費の少なくとも25%を資金負担することになっている。¹⁰

さらに、この幼児育成プログラムとは別に、ユニセフと共同して、代替的かつ補完的な幼児育成サービスを検討している、とのことである。この新規プログラムは、現在の幼児育成プログラムに新たに追加する構成要素として、保健・栄養・社会心理・文化の4側面への配慮、地域社会の高度な参加、家族レベルでの介入による0～3歳児へのサービス提供をあげている。¹¹

これらのことから、現在、教育省が実施している幼児育成プログラムは、既存の幼稚園の構成である3歳児から5歳児クラスへの教育分野での対応はともかく、保健分野や3歳未満児への対応については

⁶ World Bank

⁷ 同上

⁸ 2001年10月30日付け教育省回答(PE 18/1/126)

⁹ NGO5団体は Action Aid Kenya, AMREF, The Aga Khan Foundation, CARE Kenya, Catholic Relief Services である。

¹⁰ 2001年10月30日付け教育省回答(PE 18/1/126)

¹¹ 同上

事業として十分には形成されておらず、協力関係にある NGO の試験的な取り組みに依拠しているのではないかと想像される。さらに、幼児育成を保健分野として重点をおいていると思われるユニセフと教育省との共同プログラムが、将来、どのように形成されるかが注目に値する。

2 - 4 . 本調査の方針

本調査のテーマは、幼稚園のなかで実施されている幼児育成の現状を把握し、今後、当会がどのような協力をすれば幼児育成の質的向上につながるかを検討することにある。したがって、本調査における幼児育成は、幼稚園に通う 3 歳以上の子どもに関するものである。

ユニセフが指摘する 3 歳未満児への心と身体の健全な発達の重要性については賛同するが、本調査の対象とはせず、現在、当会が対象地域で実施している母親を対象とした基礎保健トレーニングのなかに反映し、展開を検討したい。また、幼稚園の質が向上し、地域社会が幼稚園の意義を高く評価するようになれば、幼稚園に通う子どもたちが増えると仮定し、幼稚園に通っていない子どもたちも調査の対象から除外することとする。

したがって、本調査報告においては、幼児育成と保育を同義語として取り扱うこととする。

3 . ムインギ県ヌー郡・ムイ郡の概要

3 - 1 . 地勢と行政区分

当会が、総合的な村落開発事業に取り組んでいる対象地域は、ケニア共和国東部州ムインギ県ヌー郡およびムイ郡である。

このムインギ県は、東部州 11 県のなかの 1 県で、1993 年 7 月にキツイ県から分かれて、新たに県に昇格した地域で、南緯 0 度 3 分から 1 度 12 分、東経 37 度 47 分から 38 度 57 分に位置し、総面積が 10,030.30 平方キロメートルで、現在、中部郡・ミグワニ郡・ヌー郡・ムイ郡・グニ郡・ゴメニ郡・キユーソ郡・ムモニ郡・ツェイクル郡の 8 郡からなっている。また、県庁所在地であるムインギ・タウンは、首都ナイロビから東北東へ 180km の位置にある。

同県は、ケニア山周辺ならびに大地溝帯東部の高地帯からインド洋へ緩やかに下降する平原のなかにあり、中部郡やミグワニ郡など県西部は標高 1200m から 900m の中域地帯に属し、グニ郡・ゴメニ郡・ヌー郡・ムイ郡など、県東部は標高 900m 以下の低地帯に属し、県内での平原の低部が標高 600m となる。

ヌー郡・ムイ郡は、ムインギ県内の南東部に位置し、東西約 55km、南北約 15km ~ 40km で、総面積 1,694.2km² の地域で、1999 年のセンサス人口は 36,561 人である。ヌー郡・ムイ郡は、南にキツイ県と接し、西および北西はムインギ県中部郡、北と東はムインギ県グニ郡と接している。

ヌー郡・ムイ郡の西には、南北に連なる標高 1000m 前後の山並みがあり、中部郡との境界をなしている。また、ヌー郡・ムイ郡内の中央部にも南北に連なる標高 1000m 前後の山並み(最高点がヌー山の 1385m)があり、この山並みの東側がヌー郡であり、西側がムイ郡である。この山並みを除くと、ヌー郡・ムイ郡は標高 750m 程度の平原が広がる低地帯に属し、数多くの季節河川(ワジ; 涸れ川)が流れている。

このうち、西側のムイ郡が、今回、幼児育成調査を実施した対象地域で、ムイ郡の中心であるマルキ村は、ムインギ・タウンから南東へ約 30km の位置にある。ちなみに、ナイロビからヌー村までの距離は約 210km となる。

また、ムイ郡はカリティニ区・ムイ区から構成され、その人口分布および面積は、カリティニ区が人口 6,500 人・面積 179.5 km² で、ムイ区が 8,913 人・面積 190.3km² となっている。なお、以上の行政区分とは別途に、教育区が設定されており、ムイ郡においては、ムイ区がムイ教育区を、カリティニ区のうちカムレワ小学校¹²を除く各小学校がカリティニ教育区を構成している。

¹² カムレワ小学校はングニ教育区に属する。

図 1: ケニア共和国地図

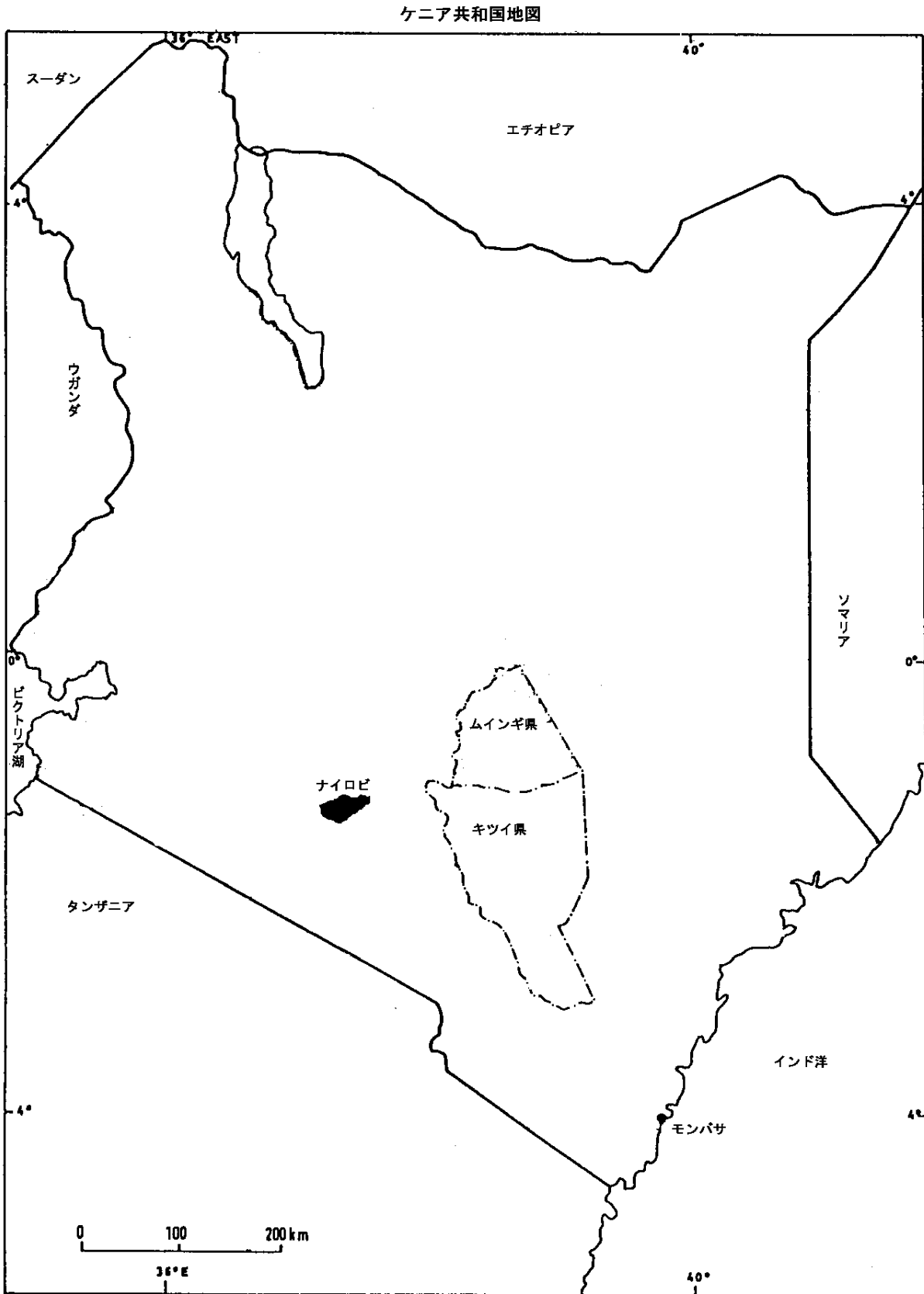


図 2：ムインギ県ヌー郡・ムイ郡地図

ムインギ県ヌー郡・ムイ郡地図



図 3：ヌー郡・ムイ郡周辺道路図

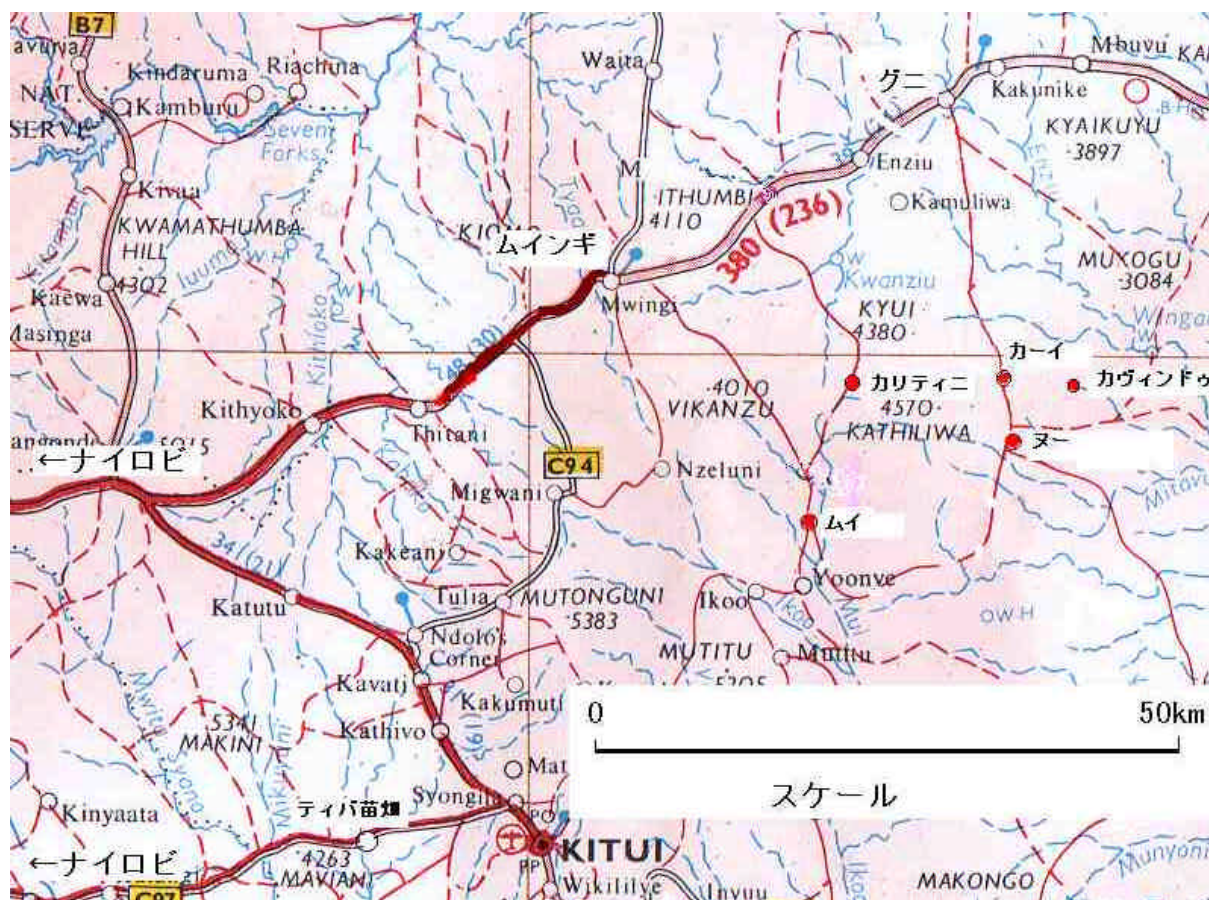


表 1：ムインギ県ヌー郡・ムイ郡区別人口および面積

ヌー郡・ムイ郡区別人口および面積 (1999年)

郡名	区名	人口 (人)	面積 (Km ²)	
ヌー郡	Nuu	ヌー区	7,628	284.4
	Mutyangome	ムチャンゴメ区	5,314	145.9
	WIngeni	ウインゲ区	8,206	894.1
ムイ郡	Mui	ムイ区	8,913	190.3
	Kalitini	カリティニ区	6,500	179.5
		36,561	1,694.2	

出典 :1999 Population and Housing Census

3 - 2 . 気象

ケニアの1980年農業気象区分による土壌湿度の分類によると、ムイ郡は半乾燥地(区分)に属し¹³、

¹³ ヌー山周辺は、半乾燥地ではあるが湿度が相対的に高い区分 に分類され、年間降水量 600mm ~ 1100mm とされる。

年間降水量 450mm～900mm とされる。一方、ヌー郡はムイ郡と同様の半乾燥地(区分)から乾燥地(区分)に属し、乾燥地では年間降水量 300mm～550mm とされる。また、農業気象区分の気温分類によると、ヌー郡・ムイ郡全域¹⁴が高温帯(区分 1)に属し、年平均気温 25.3 とされる。但し、1980年頃と 1990 年代後半を比較すると大幅に降水量が減った、とする見解が多く聞かれる。

ヌー郡・ムイ郡を含むケニア東部の降雨パターンは、3月から5月までの大雨季¹⁵、10月から12月までの小雨季¹⁶があり、それ以外が乾季とされる。しかし、近年、10月からの雨季のはじまりが、11月さらに12月と遅れることや、3月からの雨季に殆ど降雨がなかったりする現象がしばしば発生しており、降水量の減少とともに、降水パターンの変化があり、住民のもつ気象に関する伝統的な知識では予測しきれない状況がしばしば発生している。

3 - 3 . 住民と社会

住民の多くは、カンバ民族に属する。歴史的に、カンバ民族は、キリマンジャロ山の麓(タンザニア北東部)から現在のムインギ県の南東部に隣接するマチャコス県の丘陵地帯へと移動したが、度重なる干ばつのため、一部のグループはアティ川を越えて、乾燥しているが人口が少ない現在のキツイ県・ムインギ県へ、家畜と共に移動してきた。カンバの人にとって「豊かさ」とは、多くの妻を持つこと、多くの子どもを持つこと、そして、多くのウシを持つこととされる。¹⁷

また、近年、東の沿岸州タナ川側から武装した盗賊グループに襲われたり、家畜を略奪される事件が恒常的に発生し、ヌー郡・ムイ郡などに住民が移動している。

宗教では、カンバ民族は、今世紀初頭にキリスト教やイスラム教を受け入れている¹⁸とされるが、ヌー郡・ムイ郡内ではイスラム教の宗教施設であるモスクはなく、カソリックやアングリカンを含むプロテスタントなど各宗派のキリスト教教会が多くみられ、殆どの住民はキリスト教を信仰している。しかし、多くの住民は、キリスト教とともに伝統的な呪術信仰や社会慣習も持ち続けているようである。

3 - 4 . 住民の生業形態

ヌー郡・ムイ郡の住民の多くは、天水に頼ったメイズ・ソルガム・ミレット・ピジョンピー・カオピーなどの生産、ウシやヤギの牧畜、ハチミツ生産など自然環境に依拠した形での自家消費・生存のための農業・牧畜を生業としている。しかし、農業は、降水量の減少や、降水パターンの変化などのため度々収穫に失敗し、ウシやヤギ、ハチミツ生産も大規模に行なわれているものではない。

このような状況の中で、都市部への出稼ぎ者からの臨時収入、干ばつ時の緊急食糧援助、国内外の援助機関が公共事業・開発事業のための労働力確保として行われるフードフォーワーク(Food for Work)に参加してその報酬として食糧を得ることなどが、多くの住民の生計を補完する重要な要素となっている。

3 - 5 . 社会的条件

3 - 5 - 1 . 行政機構

ムイ郡の行政は、ムインギ県知事(District Commissioner)直属の行政職であるムイ郡長(District

¹⁴ ヌー山周辺は、温暖な中域地帯(2)に分類されている。

¹⁵ 一般に long rain の訳を大雨季、short rain の訳を小雨季としているので、それに従って表記した。しかし、この「大」と「小」は、降雨量の多少ではなく、降雨期間の長短であり、むしろ小雨季の方が多くの降雨がある傾向にある。

¹⁶ 同上

¹⁷ M.Kieti & P.Coughlin: pp.2-4.

¹⁸ Kieti, M.& Coughlin, P.(1990): pp.4.

Officer)により統括され、ムイ郡長事務所はムイ郡カリティニ区マルキ村に置かれている。ムイ郡はカリティニ区・ムイ区に分かれ、それぞれ区長(Chief)が郡長の直属の行政職として任命され、それぞれ事務所をかまえている。さらに、区長の下位には、それぞれ複数の助役(Assistant Chief)が任命されており、この助役が末端の行政職となっている。

行政専門職では、教育・保健・農業をそれぞれ統括する事務所がマルキ村に置かれている。ムイ郡教育事務所には、又一郡全域を統括する郡教育官(Area Education Officer)が配置されている。さらに、郡内のカリティニ教育区とムイ教育区を担当する教育区視学官(Zonal Inspector of School)が、それぞれカリティニ区カリティニ村とムイ区カロンゾウエニ村に配置されている。

保健では、ムイ郡には、カリティニ区マルキ村にキティセ診療所、ムイ区カロンゾウエニ村にムイ診療所がおかれ、それぞれ1名ずつの看護師が派遣されている。また、郡レベルで公衆衛生業務を行なう公衆衛生技官がマルキ村に配置されている。ただし、診療所の上位医療施設であるヘルスセンターが、ムイ郡にはおかれていないため、看護師の上位医療従事者となる臨床医は配置されていない。

また、又一郡開発委員会がおかれ、地域の開発関係者が集り、分野横断的・包括的に地域の開発について3ヶ月に1回程度協議をおこなっている。

3 - 5 - 2 . 開発協力団体

ムイ郡は、幹線道路から離れ、アクセスの便が悪いためか、ムインギ県内でも、現在、活動している開発協力団体は限られている。当会のほかには、現在、GTZ(German Agency for Technical Co-operation : ドイツ技術協力庁)が活動を行なっているのみである。

GTZ は、ムインギ県全域を対象として、総合食糧保障事業(Integrated Food Security Programme-Eastern: IFSP-E)を実施している。この事業は、農業や牧畜に関する技術向上や道具の提供をとおして、貧しい農家が食糧を確保できるように状況の改善を図る事業である。視点としては、食糧安全保障ではあるが、資金的余力があれば、診療所建設のための資材供与や単発的な移動診療など保健分野での支援も行なっている。

3 - 5 - 3 . 住民自助グループ

ムイ郡の住民は、さまざまな住民自助グループ(Self-help Group)を作って共同作業を行なっている。1995年のGTZによるムインギ県でのサンプル調査では、調査対象者の62%が何らかの住民自助グループに属していた¹⁹。

住民自助グループの活動はさまざまである。作付けや収穫期の畑仕事をメンバーで共同して順番に行なったり、共同での家畜(ヤギ)飼育が、よくみられる活動である。家族単位での農業生産とは別に、住民自助グループで土地を購入し、その収穫を現金化したり、会費を徴収することによって、資金を貯え、メンバーの子どもたちへの奨学金支給や入院にかかる医療費、葬式費用への協力など実施している住民自助グループもある。

メンバーの互助的な活動を超えて、公共活動的な性格の強い住民自助グループもある。植生復興事業地(Range Rehabilitation Site)での作業を担う「住民参加」も住民自助グループ化されている。GTZが資材を供与し、公共事業省が技術指導をし、住民が労働力を提供する水確保のためのダム建設も、住民自助グループ化されている。地域の診療所建設も住民自助グループで行なわれている。ただし、住民が自発的に参加し、公共事業的な活動を実施する背景に、作業の実質的な報酬として食糧が供与されることが「参加」の動機になっている事例もみられる。

¹⁹ Mwandime R.& Proell E.(1995): pp.17

4．子どもをとりまく状況

4 - 1．教育

ケニアは、1963年の独立以来、公的な学校教育を重視する政策をとりつづけているが、国家財政が限られているなかで公教育を推進する方法として、学校の形成および運営に関して地域社会の参加・協力を重視してきた。

現在のケニアの教育制度は、小学校8年、高校4年、大学4年の8 - 4 - 4制をとり、小学校就学前の子どもたちを対象とした幼稚園教育も実施されている。その他、さまざまな教育レベルに合わせた職業訓練校・各種専門学校や教員養成専門学校などが存在する。

4 - 1 - 1．小学校

小学校教育は、法律の上では義務教育には位置づけられていないが、政策として「万人のための教育(EFA: Education for All)」の達成を掲げ、全ての子どもたちが小学校に就学するよう推奨されている。1999年には、全国で小学校が17,611校登録され、それらの学校に5,867,608人の小学生が在籍している²⁰。就学率をみると、1996年のケニア全国の粗就学率、すなわち就学年齢人口に対する小学校での登録学生数の比率は77.5%²¹であるが、純就学率、すなわち就学年齢人口に対する就学年齢の学生数の比率は47%(1997年)²²となる。この粗就学率と純就学率との格差は、ケニアの小学校では、多くの子どもたちが、家庭の事情によって何年か遅れて入学したり、小学校で留年することから発生している。この就学率は、1989年の粗就学率が95.0%²³に対して、1996年が77.5%であるように、悪化の傾向にあり、1990年代末から現在までのケニア経済の悪化などからみて、この悪化の傾向は近年も改善されていないものと推定される。また、1989年の小学校第1学年の登録総数が939,500人に対して、1996年の第8学年が416,300人であること²⁴から、入学した子どもたちの半数程度が中途退学しているといえる。

ケニア政府は、地域社会が資金と労働力を拠出して小学校を建設し、教育備品を揃えれば、準国家公務員として派遣する制度をとっている。教員養成専門学校で小学校教授資格を取得した者のなかから、教育省外郭団体である教員サービス委員会(TSC: Teachers' Service Commission)が中央において一元的に小学校教員を採用し、各県へ派遣しており、ケニアの辺境地となっている半乾燥・乾燥地域へも教員を派遣している。このように教員が準国家公務員で給与が支給されるため、小学校の授業料は無料であるが、学校の守衛や給食調理スタッフの給与、チョークなどの教育消耗品、試験料、会議費や課外活動参加費などの運営経費と、教室の増設に必要な開発基金として、保護者は小学校へ相当額の支払いを行わなければならない。この支払いが滞ることが、子どもが中途退学となる理由のひとつとなっている。また、1980年代半ばまでは、教科書や教材・教育消耗品も政府から供与されていたが、世界銀行・IMFが主導するケニア政府の歳出を削減して借款の返済能力を高める構造調整のなかで、これら教育物品の供与が廃止され、これらの費用も保護者の負担となっている。

調査対象地域であるムイ郡においては、カリティニ区に9校²⁵の公立小学校があり、ムイ区においては14校の公立小学校があり、これらの学校に登録されている生徒総数は4,077人²⁶である。郡および区レベルでの年齢別人口は公表されていないため、ムイ郡における就学年齢人口が定かではなく、したが

²⁰ Kenya (2000) "Statistical Abstract 2000": pp.207

²¹ Abagi, O.: pp.4, 46 & 49

²² 前掲書

²³ 前掲書

²⁴ 前掲書

²⁵ 1校(カムレワ小学校)は、カリティニ区に位置しているが教育区としてはカリティニ教育区ではなく、隣接するングニ教育区に属するため除外した。

²⁶ ムイ郡教育事務所より2000年11月現在。カムレワ小学校を除く23校のデータ。

って租就学率および純就学率を確認することはできない。しかし、ムイ郡の小学校生徒総数のうち、第1学年が758人²⁷に対し、第8学年は252人²⁸に過ぎないことから、多くの子どもが小学校を中途退学していることが推察される。

これらのムイ郡の小学校は、地域住民が、生存限界的な貧困状況のなかで、長い間をかけて地道に労働と資金を拠出して教室建設をすすめ漸次形成したもので、今も多くの学校で保護者が毎週1回学校に集まり教室建設に関連する作業を行っており、小学校教育に対する住民参加による熱心な貢献がみられる。一方、授業料の支出は不要だが、教室建設のための開発基金、小学校運営のための諸経費、制服や机イス・ノート・筆記用具など現金支出がかさむため²⁹、保護者のなかには、小学校に子どもを通学させることができなかつたり、中途退学させざるをえなかつたり、年上の子どもとの関係で入学を遅れさせざるをえないケースなどもしばしばみられる。しかし、子どもを小学校に通わせる意欲は対象地域全般において強い、との印象を持っている。

これら小学校の法的な運営主体は、保護者と地域社会である。すなわち、小学校では、教育法によって学校運営の責任主体である学校委員会の設置が義務づけられており、保護者の代表者および支援団体または県教育委員会の代表、そして校長から構成される。この委員会において校長は、法的に議決権のない書記であり、委員会が円滑に機能するよう事務局として支援する立場にある。しかし、ヌー郡・ムイ郡の多くの小学校では、校長が、実質的な運営責任者として、保護者を教室建設など学校開発の資金および労働力を提供するだけの存在とみなす傾向が一般的である。このことから保護者は、積極的に参加する学校の運営主体ではなく、子どもの教育のために校長に従属しながら学校開発に参加させられている、と解釈できるかもしれない。

また、ヌー郡・ムイ郡の小学校においては、日本でみられる保護者が小学校の授業を見学する「授業参観」、担当教員との「保護者の面談」、担当教員による「家庭訪問」などは実施されていない。前述の学校委員会に参加する教員は校長のみであることと併せて、保護者が、子どもたちを直接教授する教員と教育や学校運営に関して公式に話し合う機会さえ設定されていないのが現状である。

一方、対象地域の教員をみると、地元やムイ郡出身者だけでは十分な教員を確保できないためか、多くの教員が中部州から派遣されている。これら派遣教員の多くは、降水量が多く土地も肥沃かつ人口稠密な農業地域に住むキクユ民族の人々であるが、派遣先であるムイ郡は、対照的に農業による生存維持も厳しく、人口密度も疎らな半乾燥地域であり、その住民は生活習慣や気質が異なるカンバ民族である。このような状況からか、各小学校に赴任した派遣教員の中には、地域社会や学校に適合できずに孤立感を強め、子どもたちへの教授意欲を喪失しているケースも珍しくない。

4 - 1 - 2 . 幼稚園

ケニアにおいては、小学校就学前の教育施設について Kindergarten・Pre-school・Pre-primary と異なった呼称があるが、制度的には教育省が管轄する同一のものであり、これらを包括した統一的な呼称として ECD Center (Early Childhood Development Center) が使われはじめている。本調査報告書においては、ECD Center を幼稚園と記することとする。教育省本省によると、この幼稚園の統一した形態として、3歳児クラスの Baby Class (ベビークラス)、4歳児クラスの Nursery (保育園)、5歳児クラスの Pre-unit (小学校準備クラス) から構成されている、とのことである³⁰。ただし、ムイ郡の地域住民ならびに教員は、一般に ECD Center (幼稚園) を Nursery と呼称する傾向にあり、4歳児クラスを特定して Nursery と呼称することはないようである。

²⁷ 同上

²⁸ 同上

²⁹ 制服を着ることは原則として学校に通う要件である。一方、教科書の購入も負担であるが、高価すぎるためか、教科書は学校に通うための要件とはならない。

³⁰ 2001年11月20日付け教育省回答(PE 18/Vol.XII/17)

教育省本省によると、1999年の全国の幼稚園総数は25,529園で、登録されている幼児の総数は1,063,883人であり、対象年齢である3歳から6歳までのケニア総人口の35%³¹に過ぎない、としている。³²

幼稚園も、小学校と同様に、教育省の管轄であり、多くの幼稚園は、小学校の敷地内に併設する形をとっているが、制度面においては大きく異なる。まず、小学校教員は準国家公務員として派遣されるが、幼稚園教員は、それぞれの小学校・幼稚園で雇用される。したがって、小学校教員が公務員として身分が保障され、小学校の位置する地域社会の経済力とは無関係に相応の給与が支払われるのに対して、幼稚園教員は保護者から徴収して給与を支払うため、貧困地域においては十分な給与を支払うことができず、待遇面で小学校教員と大きな格差が生じることになる。

幼稚園教員の資格制度について、教育省は、1984年より2年間の研修コースを開設し、幼稚園に在職する教員が4月・8月・12月の学校休校期間中に3週間づつ、寄宿施設での研修を受け、2年間、すなわち18週間のコースを修了すると正式に幼稚園教員資格を取得することになる。しかし、1999年の幼稚園教員の資格を持つ教員数は全国で17,541人であり、幼稚園教員総数40,291人に対して43.5%に過ぎない。

調査対象地域であるムイ郡においては、カリティニ区の9校の公立小学校にそれぞれ幼稚園が併設され、さらに単独のものが2園ある。ムイ区の14校の公立小学校にもそれぞれ併設され、単独のものが4園ある。したがって、幼稚園は、カリティニ区に11園、ムイ区に18園となり、ムイ郡では29園となる。これらの幼稚園のうち、小学校に併設されたものは、その小学校の校長が管理責任者であり、単独の幼稚園については、近隣の小学校の校長が管理責任者となっている。

4 - 2 . 保健

4 - 2 - 1 . 子どもの健康

ケニアの子どもの健康状態を指標からみると、5歳未満児死亡率が118(1000生存出生に対する比率)であり、世界191ヶ国のうち死亡率の高いほうから37位に位置するが、アフリカ諸国53ヶ国のうちでは32位に位置する。また、5歳未満児の栄養不良の比率は、低体重(年齢別体重 = 一般的栄養不良率)が22%、消耗性栄養不良(身長別体重 = 急性栄養不良率)が6%、成長阻害(年齢別身長 = 慢性栄養不良率)が33%となっている。³³

ムイ郡における子どもの健康状態について、5歳未満児死亡率は明らかでない。栄養不良の比率については、当会がムイ郡ムイ区において1999年7月に5歳未満児48名を対象とした実態調査において一般的栄養不良を示す低体重が51.8%、急性栄養不良を示す消耗性栄養不良が1.7%、慢性栄養不良を示す成長阻害が72.5%、との結果が得られた。また、医師による健康診断では、毛髪色素変が91.7%、毛髪組織脆弱化が83.3%、脱毛以上が83.3%などの栄養失調症状が見られた。

さらに、当会がムイ郡カリティニ区において2000年4月に5歳未満児57名を対象とした実態調査においては、低体重が42.1%、消耗性栄養不良が28.1%、成長阻害が36.9%、との結果が得られた。内科的身体所見では、調査対象児57名中75.5%に何らかの疾患が認められた。症状としては、呼吸雑音、脾臓肥大、毛髪色素欠損、落屑を伴う乾燥異常皮膚、脱水兆候、感染皮膚、腹痛であり、このことから、疾患は呼吸器感染症24%、下痢症10.7%、寄生虫10.7%、マラリア9.3%などと診断された。このように、高率で発生している種々の疾患と内在する栄養不良との併発が、消耗性栄養不良を増加させている原因と考えられる。ことに乳児の下痢と胃痛を訴える母親が多く下痢症の発症が考えられ、このこと

³¹ 1999年人口センサスによると、3~6歳(4年齢)の総人口は3,348,241人であり、これを母数とすると31.8%となり、3~5歳(3年齢)の総人口は2,568,371人で41.2%、4~6歳(3年齢)の総人口では2,450,748人で43.4%となるため、35%とする根拠は不明である。

³² 2001年10月30日付け教育省回答(PE 18/1/126)

³³ ユニセフ(2000): pp.71, 75

が急性的な消耗を引き起こしていることは十分に推測される。

この実態調査から、ケニアの標準的な状況と比較して、ムイ郡の子どもたちが劣悪な栄養状態にあることが明らかになった。

4 - 2 - 2 . 保健医療制度・保健プロジェクト

ケニアにおいて政府が直接運営管理する保健医療制度は、入院施設をもった病院（Hospital）治療サービスと母子保健を中心とした予防サービスを行なうヘルスセンター（Health Center）治療サービスに原則として限定される診療所（Dispensary）によって担われており、政府は医療スタッフを派遣している。また、教会やNGOによって、医療施設が運営されたり、移動診療が行なわれたり、地域での保健のボランティアである地域保健士（CHW: Community Health Worker）が育成・組織化されて住民を主体とした保健プロジェクトが形成されている例などがある。さらに、主に薬草を用いる伝統的な治療者（TH: Traditional Healer）についても、現在の多くのケニア人にとって、近代医療と並行する医療の実施者として認知された存在である。

ムイ郡で、政府が医療スタッフを派遣している施設は、キティセ診療所とムイ診療所に限られている。ムイ区カロソウエニ村のムイ診療所は、ムイ区全域の住民を対象とした地域唯一の医療機関である。ケニアがイギリスの植民地であった1936年に開設されたムイ診療所は、当会が同地域での活動を開始した1998年時点では、8畳間ほどの狭い診察室にムイ郡保健局より派遣されている看護師1名が常駐し、軽い症状の疾病や傷害の治療を最低限行なえるのみの診療所であった。その後、当会も協力して住民グループによる診療所の拡張事業が実施され、建物や機材などの診療所施設の整備は進んだが、充実した施設を運用するための管理運営体制の確立が遅れ、それに伴ない追加の医療スタッフ派遣も実施されていない。その結果、提供できる医療サービスは依然として最低限の治療行為および予防接種に止まっており、母子保健など子どもの健康を守る包括的な予防サービスの形成はすすんでいない。また、ムイ診療所の月間報告によると、受診に来る外来患者数は月間のべ700人を超え、時には1日70人にも上る。ちなみに、1999年12月から2000年1月の2ヶ月間において、ムイ診療所の外来患者の上位5疾患は、マラリア59.0%、上気道呼吸器感染症（URI）16.0%、皮膚感染症8.8%、肺炎4.4%、寄生虫2.8%であった³⁴。

もう1つの診療所であるムイ郡カリティニ区マルキ村のキティセ診療所は、カリティニ区の全域を対象とした地域唯一の公的医療機関³⁵である。キティセ診療所は、1988年に開設されたという比較的新しいもので、それ以前は、カリティニ区の住民はムイ郡立病院か幹線道路沿いの診療所まで行く必要があった。同診療所が建設された当初の計画では、保健センターのレベルの医療サービスを提供することを想定していたため、建物には診療棟と母子保健棟の2棟が用意されている。しかし、ムイ郡保健局から派遣されている医療スタッフは看護師1名のみであるため、診療棟のみを使用し、そこで一般診療を行っていた。1999年には県保健局よりワクチン保存用の冷蔵庫の供与を受けたため、医療スタッフの制約があるにも拘わらず予防接種サービスにも積極的に取り組み始めた。また、キティセ診療所には、ムイ郡全域の公衆衛生について管理・監督するムイ郡公衆衛生技官も配属されている。

キティセ診療所の他に、マルキ村には私設医院（Clinic）があり、一部の住民が利用している。また、行政官らの話によると、病気に罹った人々は伝統治療者（TH: Traditional Healer）を訪れ、薬草による治療を受けるのが一般的である。しかし、薬草は用法が微妙で効果が不安定であり、手遅れになった患者が診療所へ運びこまれることがある、とのことである。

ムイ郡における教会・NGOによる保健プロジェクトとしては、隣接県に拠点を置くカトリック教会

³⁴ ちなみに、同時期のムイ郡全体の公的医療施設（県立病院、保健センター、準保健センター、診療所）の外来患者上位5疾患は、マラリア36.6%、上気道呼吸器感染症（URI）16.5%、皮膚感染症6.6%、耳感染症5.1%、寄生虫3.5%であった。

³⁵ 地理的な理由から、ムイ区の一部地域の住民も対象となる。

による巡回診療が行なわれていたが、2000年7月頃に終了した。それまでは1ヶ月に1度の割合で郡内の拠点を巡回し、乳幼児の身体計測（Growth Monitoring）、予防接種、妊娠検査、及び簡単な治療が行なわれていた。また、同教会は地域保健士（CHW: Community Health Worker）の研修を実施したが、研修後のフォローアップが行なわれていないため、地域での実際の保健活動は形成されていない。

当会は、保健知識や技能を身につけた地域の専門家である地域保健士を養成する前段階として、地域の多くの母親が、基礎的かつ全般的な保健・公衆衛生や子どもの健康に関わる知識を身につけることが重要である、との認識から、母親を対象とした3日間の基礎保健トレーニングをカリティニ区の各地で開催しており、2001年11月から2002年7月までに9回開催して計150人の母親にのトレーニングを実施する予定である。

5．フィールド調査

5 - 1．フィールド調査の方法

5 - 1 - 1．調査の同意

調査に先立ち、まず、2001年8月30日にムインギ県庁にてムインギ県知事へ本調査の概要を説明し、調査に関する口頭での許可を得たのち、ムインギ県教育局長へも同様の説明をし、了承を得た。その後、9月12日に、ムイ郡長事務所で開催したムイ郡リーダー会議において、ムイ郡長・カリティニ区長・ムイ区長・ムイ郡教育官（カリティニ教育区視学官が代理出席）へ本調査について詳細に説明し、以下の点に関して最終合意をえることができた。

- (1) カリティニ区・ムイ区それぞれ3幼稚園を対象とする
- (2) 各幼稚園3日間滞在する
- (3) それぞれの幼稚園から家庭訪問を実施する
- (4) ホームステイを実施する
- (5) 対象幼稚園の選定は各区視学官と協議する

5 - 1 - 2．調査対象幼稚園の選定

まず、カリティニ教育区視学官と話し合い、幼稚園選定の条件として、マルキ村から徒歩で通える範囲で、資格を持つ幼稚園教員によって運営されている園と資格のない幼稚園教員の園とを選定することを提示し、選定は視学官の推薦に従うことにした。この結果、カリティニ区では、カリアコ幼稚園・マルキ幼稚園・キモンゴ幼稚園が選ばれた。また、視学官には、各幼稚園の運営責任者である小学校校長へ調査の主旨説明および協力依頼と、ホームステイ準備の依頼をお願いした。

つぎに、ムイ教育区視学官とも同様の話し合いを行ない、マルキ村またはカロンゾウエニ村から徒歩で通える範囲として、カティコ幼稚園・ンザマニ幼稚園・ムニュニ幼稚園が選ばれた。

5 - 1 - 3．調査方法

原則として、1週間のうち5日間で1幼稚園のフィールド調査を実施した。火曜日に、ナイロビから公共バスで現地入りし、対象幼稚園を管理する小学校校長への挨拶と説明、水曜日・木曜日・金曜日を対象幼稚園でのフィールド調査、土曜日を現地からナイロビへの移動日にあてた。

カリティニ区では、マルキ村を拠点とし徒歩にて調査を行い、ムイ区では、カティコ幼稚園をマルキ村から徒歩で、ンザマニ幼稚園・ムニュニ幼稚園をカロンゾウエニ村から徒歩または公共バスを使って移動した。

現場入りをした火曜日には、午後に対象幼稚園を管理する小学校校長への挨拶（後半は遠距離のため出向くことが出来ず、事前に手紙で知らせた）調査内容の説明を行ない、家庭訪問を実施することを確認し、ホームステイについて無理なく出来る範囲での協力をお願いした。保育内容についても日ごろの様子をみたいので、特別な扱いは避けてもらうよう重ねてお願いした。

対象幼稚園での調査の初日である水曜日は、当会のムイ郡コーディネーターである嶋本、アシスタントのカンダリと3人で入り、はじめに小学校校長へ聞き取り調査と、学校の敷地内の案内をしてもらった。その後、小学校校長から幼稚園教員へ引き継いでもらい、幼稚園において子どもが帰宅するまでの保育過程を全て参与観察し、時間の合間をみて幼稚園教員への聞き取り調査を実施した。午後からは幼稚園教員、カンダリ氏と一緒に家庭訪問を行なったが、家庭訪問する家族は、比較的裕福な家庭と貧困家庭を含む形で幼稚園教員に紹介してもらい、あらかじめ設定した質問項目を順番に聞く形で聞き取り調査を行なった。木曜日は、1人で参与観察と幼稚園教員への質問、家庭訪問は幼稚園教員と一緒にいった。金曜日にはカン

ダリ氏と一緒に参与視察・家庭訪問を行なった。土曜日にナイロビへ移動し、週末はナイロビにて調査内容をまとめた。各区3園終えたところでナイロビに1週間滞在し、各園の特徴などをまとめるという方法をとった。

なお、聞き取り調査をはじめ調査者によるコミュニケーションは、原則としてケニアの国語であるスワヒリ語で行なわれた。

5 - 1 - 4 . 調査内容

幼稚園訪問、家庭訪問における主な調査内容は、次のとおりである。

(1) 幼稚園調査

- ・保育内容(どのような保育が行われているのか・教材・保育室の環境・日案・週案等)
- ・小学校・幼稚園概要
- ・小学校校長(生徒数・諸経費・運営問題・保護者との関係等)
- ・幼稚園教員(出身・学歴・経歴・経緯・保育観・給料・保護者との関係等)

(2) 家庭調査

- ・家庭の様子(家族構成・年齢・主な収入・住環境等)
- ・生活の様子(水汲み場所・運搬・保存方法・洗濯・身体洗い・食事等)
- ・幼稚園について(どのようなところか・幼稚園への協力・通園理由・保育料等)
- ・子どもの記録(健康カード³⁶の有無・予防接種を受けているか・身体計測がなされているか)

5 - 2 . フィールド調査報告

5 - 2 - 1 . 幼稚園調査

ムイ郡カリティニ区のマルキ幼稚園・カリアコ幼稚園・キモンゴ幼稚園、ムイ区のカティコ幼稚園・ンザマニ幼稚園・ムニユニ幼稚園において実施したフィールド調査の詳細は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 1 . マルキ幼稚園

マルキ幼稚園は、カリティニ区マルキ村から500mほど南の幹線道路沿いにあるマルキ小学校に併設された幼稚園である。カリティニ区唯一のキティセ診療所、そしてムイ郡庁の建設予定地に近接するムイ郡の中心地域であり、規模が大きくかつ拡大している学校である。2001年9月13日・14日に準備調査を行ない、そして9月26日・27日に実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 1 - 1 . 概況

併設小学校：マルキ小学校(1学年～8学年：計432人)

幼稚園教員数と園児数：1人に対し71人

園児の年齢格差：5年；3歳から8歳(ただし3歳・8歳は少数)

年間諸経費：

- ・保護者単位³⁷：500シリング
- ・子ども単位³⁸：300シリング(33.3シリング/月³⁹)

³⁶ “Immunization Card”の訳。子どもの誕生・予防接種状況・身体計測の結果を記入する個人カード。

³⁷ 同一の幼稚園・小学校に通う子どもの数に関係なく、保護者単位で同一の金額が徴収される経費で、主に、教室など施設建設のための開発基金や維持管理のためのメンテナンス基金などに充てられる。

³⁸ 子ども一人当たりの経費。幼稚園の場合、主に、幼稚園教員や学校補助員(給食・門番)の給与に充てら

施設の状況：

- ・園舎は恒久教室で、レンガで出来ており基礎もある、床は土、窓が6つあり室内は明るい。
- ・備品は、机椅子、筆記用具、手作りおもちゃや絵本などそろっている。

5 - 2 - 1 - 1 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1名

属性：28歳女性；既婚；子ども4人

出身地：カリティニ区マルキ村（地元）

最終学歴と教員資格：ガリッサ幼稚園教員養成学校；幼稚園教員資格あり

経歴：

- ・ンガー幼稚園勤務3年、マドゥキ幼稚園勤務7年目で現在に至る。

教員となった経緯：

- ・子どもが好きだから子どもと一緒にいる仕事を選んだ。

保育観：

- ・子どもを知ること、ほめる保育を実践している。

給与：月額1,500シリング（年額⁴⁰13,500シリング）

5 - 2 - 1 - 1 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

- ・室内の水撒きをはじめ、おやつのお皿洗いなどが励行されている。
- ・広い室内で壁面に教材が展示されている。

食事：

- ・メイズはまだ届かず給食は始まっていない。
- ・食糧援助による給食に依存しており、援助の不足を補う工夫がなされていない。

日案の計画と実施：

日案（計画しているもの）	日案（実際行われているもの）
8:00～8:30 登園・健康視診	8:00 登園
8:30～9:00 歌・話	8:00～8:20 集会
9:00～10:00 数字	8:20～10:00 数字
10:00～10:30 戸外遊び	10:00～10:30 戸外遊び
10:30～11:00 おやつ・休憩	10:30～11:00 おやつ・休憩
11:00～11:45 個々・グループ設定保育	11:00～11:45 書き取り
11:45～12:00 降園準備・降園	11:45～12:00 出欠・降園
12:00～13:00 明日の準備（幼稚園教員）	
	* 3学期のみ15:20まで （小学校へ向けて年長児対象延長保育）

工夫されているところ

- ・来年1年生になる子には、3学期のみ毎日午後から小学校へ上がるための準備として読み書き計算の時間をつくり教えている。

れる。

³⁹ 年間12ヶ月のうち、学校期間中の9ヶ月で計算される。

⁴⁰ 同上

- ・3歳から9歳までいるが、年齢別・個々を重視した保育内容で、誉める保育を実践している。
- ・備品がないながらも手作り本の貸し出しや、年齢や学習目的⁴¹にあわせた教材を展示するコーナーをつくり子ども達がいいつでも見たり考えたり出来るよう環境を整えている。

不足しているところ

- ・戸外遊びについては年齢別の配慮が少なく、同じ内容を3歳～9歳までの子が行っているため縄跳びなどでは偏りがみられ、ルールのある遊びについても年中児に合わせてしまうので年長児には物足りなく、異年齢であることを考慮した遊びの工夫やまとめ方が必要である。
- ・11時からの設定保育では書き取りや計算が中心であるため年少児には時間が長く感じられるため、遊んでしまう子、居眠りをする子、喧嘩を始める子、皿洗いから帰ってこない子などがでてしまう。これらの年少児に対しての言葉かけや働きかけなどが不足している。

保健に関する配慮

- ・子どもたち各人の健康状態を把握するために、入園時に健康カードを集めて、予防接種の記録・身長体重・病歴を確認し、幼稚園教員のノートに記録している。
- ・学期ごとにキティセ診療所へ子どもたちを連れて行き、身体計測を行なうが、現在は、診療所の体重計が壊れているので行っていない、とのこと。

調査者コメント

- ・保育内容が充実しており、子ども達との信頼関係も良くとれている。子ども達ひとりひとりと向き合い、この仕事を天職と思っているが、仕事内容に対して給料が安いと不満を持っているため、今ひとつ保育に集中できずムラが出てきている。この状態から脱出するには、いかにやる気を出させ、継続させることができるかが重要である。

5 - 2 - 1 - 1 - 4 . 保護者との関係

幼稚園教員は、保護者に対して、子どもの具合が悪いときは、幼稚園を休んで病院へ連れて行ってほしい、と考えているが、特に保護者と話し合うことはないようである。

5 - 2 - 1 - 1 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

校長が幼児教育に求めることは、小学校へ入学するための大切な時期なので、子どもたちがしっかり学ぶことである。また、毎週金曜日は、集会をはじめ小学校と幼稚園が合同で過ごすよう配慮している。

5 - 2 - 1 - 1 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、ブランコなど戸外遊びの遊具がないこと、鉛筆・色鉛筆がないこと、子どもの数が多いこと、本人の給料が安いことなど、様々なことを問題として感じ、不満となっている。これらの不満が、教員自身の保育意欲の減退となっていることは明らかである。

また、小学校校長は、保護者が定められた課金（諸経費）を支払わないため、幼稚園教員の給与を支払えず、教室建設のために徴収している開発基金から支出せざるを得なくなることを心配している。

5 - 2 - 1 - 2 . カリアコ幼稚園

カリアコ幼稚園は、カリティニ区マルキ村から北へ3Km、カリティニ区の2つの主要な村であるマルキ村とカリティニ村の中間に位置し、幹線道路から少し離れた場所にある幼稚園である。併設する小学校がないためマルキ小学校の管理責任となっている。2001年9月19日から21日まで実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

⁴¹ 例えば「数字を覚える」「アルファベットを覚える」など。

5 - 2 - 1 - 2 - 1 . 概況

併設小学校：なし

幼稚園教員数と園児数：1 人に対し 38 人

園児の年齢格差：5 年；3 歳から 8 歳

年間諸経費：

- ・保護者単位：300 シリング
- ・子ども単位：450 シリング（50 シリング/月）

施設の状況：

- ・園舎は仮設教室で、木を組んだ間に石と泥を詰め込んだ壁、土の床、小さな窓が 2 つあり、屋根はトタンである。しかし、室内は狭く、10 個の机イスで埋まってしまいう広さである。
- ・備品は、机、椅子、教材用布芝居、文房具少々ある。

5 - 2 - 1 - 2 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1 名

属性：28 歳女性；未婚；子どもなし

出身地：カリティニ区カリアコ村（地元）

最終学歴と教員資格：ガリッサ幼稚園教員養成学校；幼稚園教員資格あり

経歴：

- ・ガリッサ幼稚園教員養成コースを終了後に、カリアコ幼稚園へ就職、現在に至る。

教員となった経緯：

- ・この地域に先生がいなかったため自分になろうと思った。

保育観：

- ・小学校入学前に集団生活で助け合うことなどを伝える。

給与：月額 1,000 シリング（年額 9,000 シリング）

5 - 2 - 1 - 2 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

- ・戸外の掃き掃除、室内の水まきなど比較的清潔にしている。

食事：

- ・本来なら給食があるが、まだ運ばれておらず現在は食べていない。
- ・食糧援助による給食に依存しており、援助の不足を補う工夫がなされていない。

日案の計画と実施：

日案（計画しているもの）	日案（実際行われているもの）
* 毎日日案を書いており、テーマに基づいて保育を行っている。大体テーマは 2 日間ごとで変わって行く。	8:00 登園
	8:00～8:30 園周りの掃除
	8:30～9:00 設定保育 (歌・書き取り)
	9:00～10:00 数について
	10:00～10:30 戸外遊び
	10:30～11:00 おやつ
	11:00～11:50 テーマに基づき書き取り・歌

工夫されているところ

- ・ 戸外遊びが充実している。年齢の発達に合わせた内容を用意しており、グループ別での課題を与え運動を通して子ども達のつながりを大切にしている。最初は小さな体の動きを重視し、徐々に大きな動きになったところで休憩に入る。室内での静的活動と戸外での動的活動がバランス良く取り入れられている。
- ・ その日のテーマに基づいた歌や詩、遊びなどを常に用意しているため、沢山のことに触れる機も多く、自分の身体・手足を使った歌や表現などを楽しみながら行っている。

不足しているところ

- ・ 3歳から8歳までの年齢差があるが、室内設定保育（特に書き取り）では年長児を中心とした保育内容になってしまい、年少児がもてあましている状態である。
- ・ 自分の保育に自信を持っていることや保育に対して完璧主義なところから、子ども達に対し強引になってしまうところがある。書けるまで黒板の前に立たせたり、みんなの前でしかりつけるなど、自分の感情が先にたち個々に対する配慮の気持ちが足りない。

保健に関する配慮

- ・ 幼稚園教員は、子どもが手洗い・食器洗い・衣服の体温調節・水分補給など身につけるよう心がけ、個々の衛生管理（衛生検査）をしている、とのことである。

調査者コメント

- ・ 幼稚園教員は、歌や遊びをよく知っており、「水」や「家畜」など1日のテーマを設定して保育を進めており、彼女の積極性が十分にみられ、子どもの動機付けにつながっている。「備品が揃っていない」ということで、幼稚園教員は、自分が持っている保育の知識と比較して保育内容が限られていると感じているが、同じ環境であるカリティニ区内で他の幼稚園はどのような保育を行っているのか、どのような工夫が見られるかなど見学する勉強会があれば、自分の目でみて何が出来るかを感じ取ることにより、保育の幅がもっと広がるだろう。
- ・ 本幼稚園は、小学校も併設されていないため、小学校教員との交流も限られ、強く孤立感を感じているようである。

5 - 2 - 1 - 2 - 4 . 保護者との関係

毎週火曜日が保護者作業日になっており、その時に子どもの様子など話すことがある、とのこと。

5 - 2 - 1 - 2 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

本項目については、聞き取り調査を行っていない。

5 - 2 - 1 - 2 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、子どもたちの病気や栄養に偏りがあること、園舎が小さいこと、文房具がないこと、学校と家が離れていることを問題としてあげている。また、給与についても不満を感じている。

5 - 2 - 1 - 3 . キモンゴ幼稚園

キモンゴ幼稚園は、カリティニ区マルキ村から幹線道路を外れ、西へ7Km離れた山の中にあるキモンゴ小学校に併設された幼稚園である。住民が広範に離れて居住する人口密度の低い地域である。2001年10月3日から5日まで実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 3 - 1 . 概況

併設小学校：キモンゴ小学校（1 学年～8 学年：計 225 人）

幼稚園教員数と園児数：1 人に対し 48 人

園児の年齢格差：5 年；4 歳から 9 歳（9 歳児が 14 人も在籍する）

年間諸経費：

- ・保護者単位：300 シリング
- ・子ども単位：315 シリング（35 シリング/月）

施設の状況：

- ・園舎は仮設教室で、木を組んだ間に石と泥を詰め込んだ壁、土の床、小さな窓が 2 つあるが、ドアは無く、屋根はトタンである。
- ・備品は、ほとんど揃っていない。

5 - 2 - 1 - 3 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1 名

属性：25 歳女性；未婚；子ども 1 人

出身地：カリティニ区キモンゴ村（地元）

最終学歴と教員資格：小学校 8 年；幼稚園教員資格なし

経歴：

- ・ガリッサ幼稚園教員養成コースを中退した後、グエニ幼稚園 2 年間勤務。
- ・昨年よりキモンゴ幼稚園勤務、現在に至る

教員となった経緯：

- ・自分の親に勧められたことと、自分自身も子どもが好きだから、この仕事をしている。

保育観：

- ・子どもに色々なことを教える中で、良いこと悪いことなどを伝えていきたい。

給与：月額 900 シリング（年額 8,100 シリング）

5 - 2 - 1 - 3 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

- ・室内の掃除はあまりされていない。
- ・展示教材を配置するなどの工夫がなされていない。黒板は毎日職員室から運んでいる。

食事：

- ・10 月 4 日夕方に給食（メイズ）が届き、来週から給食が始まる予定。
- ・食糧援助による給食に依存しており、援助の不足を補う工夫がなされていない。

日案の計画と実施：

日案（計画しているもの）	日案（実際行われているもの）
7:45 登園	7:45 登園
8:00～8:15 健康視診・集会	8:00～8:20 集会
8:20～9:00 室内自由遊び	8:20～9:30 設定保育
9:00～10:00 集団遊び	(計算・書きき取り)
10:00～10:30 戸外遊び	9:30～10:00 休憩・おやつ
10:30～11:00 休憩	10:00～11:50 設定保育

11:00～11:45	集団遊び	(計算・書き取り)
11:45～12:00	昼食準備・昼食	11:50 降園準備・降園 *給食はまだ始まっていない 降園時間は11:30～12:00の間

工夫されているところ

- ・自然物を使った保育が浸透している。木の棒を使い計算(足し算)をしたり、書き取りでは実際に木の実や物を持ってきて目でみて書いて覚えるようにしている。また、子ども達の集中力が欠けてきた時など歌を歌って気分を切り替えるなど、幼稚園教員が大きな声を出さなくても保育が進んでゆくことが良いところだ。
- ・帰る前に、今日の出来事を子ども達と一緒に振り返ってみたり、明日の準備や父兄への連絡など詳しく話すことにより、聞くこと伝えることが自然と身につくようになっていく。

不足しているところ

- ・室内での活動がほとんどで、主に書き取りや計算が多く、保育に偏りがでている。
- ・戸外遊びを行っていないため、運動を通しての集団遊びやルールの理解が困難であると同時に、幼稚園教員自身が年齢別運動能力の把握をしていないことや戸外遊びを取り入れようとしていないところに問題がある。
- ・ノートを持ってこなかった子に対し(いつも同じメンバー)外の地面で書き取りをさせているが様子を見ることも無く配慮に欠けている。
- ・子どもへの問いかけや、歌を歌う機会が少ない。年齢別保育の配慮や工夫がみられない。

保健に関する配慮

- ・身体を清潔にすること身だしなみについてなど歌を通して教えている、とのことだが、実際にはあまりみられなかった。

調査者コメント

- ・本人は資格を持っていないことに引け目を感じているが、おっとりした性格で子ども達とも波長があっており、幼稚園教員としての素質も感じられるので積極的に保育に携わって欲しい。しかし、幼稚園教員養成コースを中退し、保育や子どもの発達を十分に学んでいないためか、得意分野に偏った保育を行ない、調査者からみると、得意分野の工夫はあるが、不得意分野が弱く、総体的にみて変化の乏しい保育となっている。保育を勉強する機会が与えられることや、関係者同士の情報交換の場があると保育内容も変化するだろう。

5 - 2 - 1 - 3 - 4 . 保護者との関係

毎週水曜日が、小学校・幼稚園いずれの保護者も参加する保護者作業日になっているが、幼稚園教員は、特に問題のある子どもについて、その子の親と話したりしている、とのことである。

5 - 2 - 1 - 3 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

校長が幼児教育に求めることは、小学校教育に入る前の大切なところなので、しっかりカリキュラムをたて保育を行ない、創造性ゆたかな子どもに育つことである。

5 - 2 - 1 - 3 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、園舎が小さいことと、教員用の指導要領やガイドブックがないことを問題としてあげている。

5 - 2 - 1 - 4 . カテイコ幼稚園

カテイコ幼稚園は、カリティニ区マルキ村から幹線道路を南へ 6Km、ムイ区カテイコ村（旧ムイ村）にあるカテイコ小学校に併設された幼稚園である。カテイコ村は、古くは今のムイ郡にあたる地域の中心地で、現在でも毎週木曜日にムイ郡内で唯一の公式市場が開かれている。2001 年 10 月 17 日から 19 日まで実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 4 - 1 . 概況

併設小学校：カテイコ小学校（1 学年～8 学年：計 318 人）

幼稚園教員数と園児数：1 人に対し 70 人

園児の年齢格差：4 年；3 歳から 7 歳

* 但し、幼稚園教員は子どもの年齢を把握しておらず、実際には 9 歳の子どもも多数在籍していることを確認した。

年間諸経費：

・保護者単位：400 シリング

・子ども単位：300 シリング（33.3 シリング / 月）

施設の状況：

・園舎は、レンガ造りだが基礎がない仮設教室で、比較的古く、所々亀裂が入っている。

・机イスが不足しており、配置されている机イスも小学生用のもので幼稚園の子どもには不適切なサイズである。

5 - 2 - 1 - 4 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1 名

属性：36 歳女性；既婚；子ども 7 人

出身地：ムイ区ルンディ村

最終学歴と教員資格：ガリッサ幼稚園教員養成学校；幼稚園教員資格あり

経歴：

・ギブラ幼稚園にて 8 年間勤務、今年 1 学期からカテイコ幼稚園勤務。

教員となった経緯：

・両親が選んだのでこの仕事をしている。

保育観：

・子どもと一緒に過ごすことを大切にしている。

給与：月額 1,000 シリング（年額 9,000 シリング）

5 - 2 - 1 - 4 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

・汚れている。

食事：

・食糧援助による給食のギゼリ⁴²とは別に、各家庭からおやつを持参させ食べさせている。

⁴² 粒状のメイズ（白トウモロコシ）や豆を水煮したケニアの代表的な主食。

日案の計画と実施：

日案（計画しているもの）	日案（実際行われているもの）
7:45 登園	7:45 登園
8:00～8:15 健康視診・集会	8:00～8:20 集会
8:20～9:00 室内自由遊び	8:20～9:50 設定保育
9:00～10:00 設定保育	(計算・書き取り)
10:00～10:30 外遊び	9:50～10:20 休憩・おやつ
10:30～11:45 設定保育	10:20～11:00 設定保育
11:45～12:00 昼食準備・昼食	(計算・書き取り)
12:00～13:00 明日の準備（幼稚園教員）	11:00～11:30 2回目の休憩
	11:30～12:00 粘土遊び
	12:00～12:30 給食・帰宅

工夫されているところ

- ・外遊びの時、木陰を利用し運動を行っていた。

不足しているところ

- ・3学期というのに1学期のような保育内容（計算については足し算3まで・カンバ語は母音・書き取りについてはアルファベット途中）を行っていた。
- ・子ども達と先生の信頼関係が取れておらず、子ども達は先生の顔色を見ながら過ごしていた。
- ・休憩時間が2回、合わせて1時間あり先生の都合により伸びることもあり長すぎる。
- ・朝、書き取りや数などを自由に選んで行う時間が40分あるがその後のフォローがないため子ども達は何をやってよいのか分からず混乱していた。
- ・幼稚園教員自身が園児数や個々の年齢をきちんと把握していないことが問題であり、保育に対する意気込みやプロ意識など感じられない。そのため保育内容すべての面で年齢差に対する工夫がみられないと同時に子ども達に対する配慮が不足している。
- ・給食を食べるところを見ずにすぐに帰宅してしまう。

保健に関する配慮

- ・子どもたちの手洗いを習慣として定着させている。
- ・週2回、衛生検査を行っている（頭を洗う・つめを切る・衣服が乱れていないかどうか・全体的に清潔にしているかどうか）とのことだが、調査期間中にはみられなかった。

調査者コメント

- ・現時点で保育に対する情熱ややる気が見られず、それが子ども達にもそのまま伝わっているのが良い状況とは言えない。その要因としては、幼稚園教員自身の給料が低いことに強く不満をもっていること、他の職員や校長との関係があまりよくないこと、自分の子育てに精一杯で精神的に余裕がないことなどが考えられる。この状態でやる気を求めるのは困難であるが、どうすると家事と仕事を両立できるのかを考えることからはじめ、現場では子ども達との信頼関係づくりから取り組み、日々の積み重ねを大切に過ごすごとにより徐々に保育が活気づいてくるだろう。

5 - 2 - 1 - 4 - 4 . 保護者との関係

毎週土曜日が、小学校・幼稚園いずれの保護者も参加する保護者作業日になっているが、幼稚園教員は、何かあった時は話をする、とのことである。また、子どもたちの様子について、保護者と話し合いの場がほしい、と考えている。

5 - 2 - 1 - 4 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

校長が幼児教育に求めることは、子どもが、先生を知ったり友達と一緒に居ることにより集団生活を

味わうことである。また、学校集会に参加することで、小学生徒との仲間意識をつくってほしい、と考えている。

5 - 2 - 1 - 4 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、トイレが遠いこと、机イスが不足していること、保護者に課金（保育料・諸経費）の未払いがあること、園舎が小さいことを問題としてあげている。また、給与についても強く不満を感じている。

5 - 2 - 1 - 5 . ンザマニ幼稚園

ンザマニ幼稚園は、ムイ区長事務所があるムイ区カロンゾウエニ村から北東 3Km の幹線道路から離れたンザマニ小学校に併設された幼稚園である。2001 年 10 月 24 日から 26 日まで実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 5 - 1 . 概況

併設小学校：ンザマニ小学校（1 学年～8 学年：計 153 人）

幼稚園教員数と園児数：1 人に対し 28 人

園児の年齢格差：3 年；3 歳から 6 歳

年間諸経費：

- ・保護者単位：600 シリング

- ・子ども単位：600 シリング（66.7 シリング/月）

施設の状況：

- ・幼稚園の園舎はなく、屋外の木の下に机とイスを置き保育を行っている。

- ・机イスが不足している。

5 - 2 - 1 - 5 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1 名

属性：22 歳女性；既婚；子ども 2 人

出身地：カリティニ区ムティオニ村

最終学歴と教員資格：小学校 8 年；幼稚園教員資格なし

経歴：

- ・1999 年よりンザマニ幼稚園に勤務、1 年ほど産休をとり今年 3 学期より復職。

教員となった経緯：

- ・両親が選んだのでこの仕事をしている。

保育観：

- ・子どもが好きで一緒に過ごしたいと思ったから。

給与：月額 800 シリング（年額 7,200 シリング）

5 - 2 - 1 - 5 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

- ・教室はないが、カバンや水置き場など整頓されている。

食事：

- ・9:30 にウジ⁴³が出て 12:00 には給食（ギゼリ）を食べる。
- ・食糧援助がない場合の食事については確認できない。

日案の計画と実施：

週案（計画されているもの）	週案（実際行われているもの）
8:15～8:50 計算・言葉 （英語・スワヒリ・カンバ）	8:00～8:20 集会
8:50～9:25 言葉	8:20～9:30 設定保育 （計算・書きき取り）
9:25～10:00 休憩	9:30～10:00 おやつ
10:00～10:35 言葉・外遊び	10:00～10:30 戸外遊び
10:35～11:15 言葉・美術・外遊び	10:30～11:00 休憩
11:15～12:00 給食	11:00～12:00 粘土あそび
	12:00 給食

工夫されているところ

- ・アルファベットを教えるときに文字だけではなく、動物の鳴きまねや動きを取り入れて行っており、その後ノートへ書いているので楽しみながら書き取りをしている。
- ・園舎がなく外での保育だがカバン掛けや水置き場など整理整頓されていた。
- ・座り方も年齢別になっていたので保育がやりやすくなっていた。
- ・計算の時など、大きい子に対しては普通の計算を、小さい子に対してはマンゴーの絵を書いて計算に興味を持たせるように工夫していた。
- ・その他、10 の数だけ石ころを拾ってくるなど自然物の教材も存在していた。

不足しているところ

- ・粘土遊びでは課題を与え作るものを決めていたが、出来上がったものに対し幼稚園教員の判断で良い悪いを決め、後者に対しては「明日はもっと良いものを作りなさい」と手を木の棒でたたくことにより、子ども達の創造力をつぶしている。
- ・自分で選んだり考えたりする場がない。
- ・集団遊びや運動があまり行われていないため、身体をもてあましていく。
- ・歌が歌われることが少なかった。

保健に関する配慮

- ・屋外なので汚れやすいが、子ども自身が汚いと思った時にそれぞれ手や顔を洗う習慣がよく身についている。
- ・幼稚園教員は、子どもたちに手洗い・食器洗いの習慣を定着させており、また、身につけていない子どもを把握している。
- ・年2回、カソリック教会の医療専門家を招き、小学校・幼稚園の保護者を対象とした保健講習会を実施している。

調査者コメント

- ・文字を教えることや計算に対しては子どもの立場になって考えており、書き取りや計算が充実している。
- ・運動に関しては年齢別の発達能力を把握せず簡単な内容のみを行っている。運動の大切さや集団遊びを通してのルールなどを伝えていけるような講習会や幼稚園教員自身が体験し遊びの楽しさを知り子ども達に伝えていくようになれば、本人にとっても保育が楽しくなるのではないかと。そうすることで、自分なりの工夫も出てくるようになり、他の幼稚園にも興味を持つきっかけになるだろう。

⁴³ ポリッジ。粉状にした穀物・豆を粥状にし、甘味料や可能であればミルクを加えたもの。

5 - 2 - 1 - 5 - 4 . 保護者との関係

小学校・幼稚園いずれの保護者も参加する週 1 回の保護者作業日に、幼稚園教員は、何か伝えたいことや問題があった時に話す、とのことである。

5 - 2 - 1 - 5 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

校長が幼児教育に求めることは、就学前の大切な時期なので、子どもがしっかり勉強することである。

5 - 2 - 1 - 5 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、園舎がないこと、机イスが十分ないことが問題と考えている。

5 - 2 - 1 - 6 . ムニユニ幼稚園

ムニユニ幼稚園は、ムイ区長事務所があるムイ区カロンゾウエニ村から幹線道路を北へ 5Km のムニユニ小学校に併設された幼稚園である。2001 年 10 月 31 日から 11 月 2 日まで実施したフィールド調査の結果は次のとおりである。

5 - 2 - 1 - 6 - 1 . 概況

併設小学校：ムニユニ小学校（1 学年～8 学年：計 333 人）

幼稚園教員数と園児数：1 人に対し 69 人

園児の年齢格差：5 年；3 歳から 8 歳

年間諸経費：

- ・保護者単位：870 シリング
- ・子ども単位：405 シリング（45 シリング/月）

施設の状況：

- ・園舎は恒久教室で、レンガで出来ており基礎もあり、ドアも取り付けられている。床は砂になっている。
- ・備品は、ほとんど揃っている。机イスは、子どもの体型に合わせたサイズに合せた小さいものが揃えられている。

5 - 2 - 1 - 6 - 2 . 幼稚園教員

配置数：1 名

属性：32 歳女性；既婚；子ども 6 人

出身地：ムイ区ンギルニ村

最終学歴と教員資格：ンギルニ高校卒業；幼稚園教員養成コース在籍中（本年 12 月終了予定）

経歴：

- ・1996 年よりムニユニ幼稚園勤務、現在に至る。

教員となった経緯：

- ・子どもが大好きで、ずっと一緒にいたいと思いこの仕事を選んだ。

保育観：

- ・子ども達と色々なことを分かり合う保育。

給与：月額 1,000 シリング（年額 9,000 シリング）

5 - 2 - 1 - 6 - 3 . 保育状況

園舎の利用状況：

- ・室内が広く床は砂、ドアがついている。
- ・コーナー遊び（粘土・ままごと・お店屋さん・薬屋さん）、手づくり楽器、布芝居など揃っている。
- ・室内が清潔にされている。

食事：

- ・10時半のおやつにウジ、給食にはギゼリが出ている。
- ・ウジを作るため、幼稚園クラスは学期ごとに各家庭からソルガム・ミレット・グリーングラムのいずれか1kgを集め、その他に砂糖代として35シリング集めている。

日案の計画と実施：

週案（計画しているもの）	週案（実際行われているもの）
8:00～8:15 集会	8:00～8:20 集会
8:15～9:00 室内遊び	8:40～9:00 歌・話（その日のテーマがある）
9:00～9:30 言葉（英語・スワヒリ・カンバ）	9:00～9:40 計算・戸外遊び
9:30～10:00 計算・音楽・戸外遊び	9:40～10:00 言葉
10:00～10:30 おやつ・休憩	10:00～10:30 休憩
10:30～11:00 計算・美術・戸外遊び	10:30～11:00 おやつ
11:00～12:00 音楽・美術	11:00～12:00 粘土
	12:00～12:30 給食

工夫されているところ

- ・粘土遊びなど個別遊びでも、歌や運動などの集団遊びでも、それぞれの子どもの個性を大切にされた保育がなされている。
- ・歌をうたいながら身だしなみについて伝えたり、歌を通して栄養のバランスなどに触れ、後から詳しく子ども達と話をする中で理解を深めていくように保育を進めている。
- ・すべての面で子ども達と共に考えるという所がとても良い。
- ・粘土遊びにしても、自由なものを作らせ個々の納得がいくまで続けることや、出来たものには批判することなく必ず目を通し話を聞いていることが子ども達のやる気を伸ばし創造力を膨らませている。実際に数多くの作品がみられ、生活の中での子ども達の鋭い視点がうつつし出されていた。
- ・室内にコーナー遊びの施設があった。
- ・計算や書き取りなど年齢にあわせた課題を与えている。

不足しているところ

- ・子ども達の自由を尊重している部分は共感できるが、時々惰性になってしまうところもあるので、適切なタイミングで、ちょっとしたきっかけ作りや声かけをすると、子ども達も気持ちの切り換えができ、次の行動に移りやすい。

保健に関する配慮

- ・歌をうたいながら身だしなみについて伝えたり、歌を通して栄養のバランスなどに触れ、後から詳しく子ども達と話をする中で理解を深めていくように保育を進めている。
- ・子どもたちに、手洗い・食器洗いの習慣をよく定着させている。

調査者コメント

- ・現在、ガリッサの幼稚園教員養成コースに在学しており、学んできたものを保育に取り入れながら現代的な保育を目指し実践しているのでとても興味深い。今年の12月で終了するが、その後、どのような保育の展開になるのか楽しみである。
- ・学校以外でも保育に関する情報交換や刺激となる場があれば、もっと内容が濃くなると同時に、自分の保育が見えてきて得意分野と不得意分野のバランスを見直すことが出来るだろう。その後、自分なりに工夫していくことがやる気へとつながっていくように思う。

5 - 2 - 1 - 6 - 4 . 保護者との関係

1ヶ月に1回10時~12時まで保護者と話をする機会をもうけ、子どもの問題・食べ物について・幼稚園の登園時間などを話し合っている、とのこと。

5 - 2 - 1 - 6 - 5 . 小学校校長の幼稚園への配慮

校長が幼児教育に求めることは、子どもに先生との関係や集団生活はどのようなことかを教えることである。

5 - 2 - 1 - 6 - 6 . 抱える問題

幼稚園教員は、あまり問題はないと考えているが、一部の保護者が課金（保育料・諸経費）を払っていないことは問題としている。また、屋外に固定遊具を作してほしい、と希望している。

5 - 2 - 2 . 幼稚園調査の分析

5 - 2 - 2 - 1 . 保育内容

ケニアの幼稚園での保育内容は、言語、音楽リズム、創造活動、外遊びと自然、環境、数学が行われている。調査対象地域であるムインギ県ムイ郡での保育はカンバ語で進められており、各園で指導計画案（日案・週案）を立て、それに沿って日々の保育に取り組んでいる。

5 - 2 - 2 - 1 - 1 . 1日の流れ

幼稚園は、朝8時から全校集会（幼稚園から8年生まで）がはじまり、約20分間先生の話聞く。その後、各クラス別の活動が始まる。室内での設定保育では、主に言語（英語・スワヒリ語・カンバ語）と数学である。ひとつのことを終えるまでの時間が長いので、途中で歌を入れたりしながら集中力を取り戻すようにしている。戸外遊びでは、教員と一緒に運動遊びを楽しんでいる。その後、おやつを食べ、そのまま自由遊びとなる。この時間帯は、粘土を作って遊ぶ子が多かった。室内に戻ってからは、自分を取り巻く環境に関する話や、誌の朗読などを行っている。朝の続きで語学や数学をすることもあがるが、同じことを極力しないように日案を組んでいる。以下は、ムイ郡での標準的な幼稚園の1日の流れである。

時間	1日の流れ
7:45	順次登園
8:00~8:20	集会
8:20~9:00	室内自由遊び
9:00~10:00	設定保育（英語・スワヒリ語・カンバ語・数学・音楽・環境など）

10:00～10:30	戸外遊び
10:30～11:00	休憩・おやつ
11:00～11:45	設定保育（英語・スワヒリ語・カンバ語・数学・音楽・環境など）
11:45～12:00	昼食準備・昼食
12:30	降園

5 - 2 - 2 - 1 - 2 . 言語

言語は、英語・スワヒリ語・母語（この地域ではカンバ語）の3つを学んでおり、保育の進め方としては、歌い慣れた歌を英語やスワヒリ語に置き換えて歌ったり、カンバ語やスワヒリ語の歌を順番に歌っていったりと、子ども達が自然と入ってゆける工夫がなされている。書き取りは、教員が黒板にアルファベットを書き、子ども達と一緒に読んだ後、それぞれのノートに写し、出来た子から教員のところへ持って行き、チェックをしてもらうというパターンが多かった。ンザマニ幼稚園では、教員が黒板にアルファベットを書き、その頭文字からはじまるものをあげ（CならCOWなど）、実際にその動物の鳴き声や、動きを真似てみた後にノートに書き写すなど、楽しみながら行っていた。一方、教員に当てられ黒板に書いたものの、間違ってしまった時に、出来るまでその作業を繰り返し立たせておく幼稚園教員もみられた。

5 - 2 - 2 - 1 - 3 . 音楽リズム

音楽リズムは、室内にて教員と一緒に身体を動かしながら歌を歌うことが中心となっていた。マルキ幼稚園では、年齢別にパートを決め（ソプラノ・アルト・テノール等）年少児は分かりやすメロディーを、年長児は少し複雑な音階を用意し、合唱に挑戦している姿がみられた。この地域ではキリスト教信者が多く、毎週、教会を訪れているせいか、合唱に対しての違和感が少なく、自然と取り組んでいた。ムニュニ幼稚園では、手づくり楽器（タンバリン）を片手にリズムをとりながら歌い、子ども達も積極的に行なっていた。

日頃、保育の中で歌われている歌は、6園共通しているものもあつたが、歌詞は同じでもメロディーが微妙に違っていた。

5 - 2 - 2 - 1 - 4 . 創造活動

幼稚園教員指導ガイドに紹介されている活動内容としては、絵を描いたり、おもちゃを作ったり、貼り絵・切り絵、釘打ち、縫い物などだが、この地域での創造活動は「粘土遊び」のみだった。半乾燥地である過酷な環境かつ貧困な状況から、唯一お金がかからず、すぐに手に入る身近な教材が粘土なのである。6園に共通して行われていた遊びだが、その園によって「粘土遊び」の受け止め方が違っていたようだ。キモンゴ幼稚園とンザマニ幼稚園では、幼稚園教員が、あらかじめ作るものを決め、課題を子ども達に課し、出来上がりを評価するというものだった。したがって、作品の種類が乏しく、牛・人形・テーブル・ラジオなどに限られていた。これに対し、ムニュニ幼稚園では、子ども達の作りたいものを、子ども達が納得行くまで作らせ、出来上がったものに対して、教員は特にコメントしないが、きちんと認めているため、次々に工夫されたものが作られていた。現に作品の種類が一番多く（牛・鳥・ラジオ・人形・車・テーブル・チャパティー・犬・鎌・子ども等）個性的な作品が多かった。

5 - 2 - 2 - 1 - 5 . 外遊びと自然

どの園も30分ほど外遊びの時間を用いており、体育的な運動遊び（準備運動・かけっこ・スキップ

等)・ルールのあるゲーム遊び(ハンカチ落とし・ニヤマニヤマニヤマ等)を行っていた。子ども達の動きをみて、日頃の外遊びがどれだけ充実しているか、又は重視されていないかがはっきりしていた。キモンゴ幼稚園では体育的な遊びは行われていなかった。これは教員の都合によるものだったが、発達のバランスとして、簡単な運動遊びから取り入れていくことが必要だろう。カリアコ幼稚園では、年齢別に運動能力やり、発達の違いを重視し、キャッチボールをするにもグループに分け、年齢別の課題を与えていた運動遊びにもひと工夫がみられた。

5 - 2 - 2 - 1 - 6 . 環境

ここでは主に、子ども達を取り巻く環境や文化について学ぶ。家族の名前から始まり、家族構成、隣人、家で飼育している動物の種類と役割、家庭用品や家具、洗濯から畑作りまで様々なことを学ぶ。どれも普段の生活の中で欠かせないものだけに、興味深く子ども達の会話もはずんでいる。それだけでなく、大統領や国家・国旗についても学んでいる。気候(雨や曇り、寒い暖かい等)や水の大切さ、自分達の住んでいる国についても、この時期に伝えている。

5 - 2 - 2 - 1 - 7 . 算数

言語に続き力を入れている分野であり、各園の特徴がでていた。壁面の数字表は、数字とその下に数を表すもの(瓶ジュースのフタなど)を飾っており、数字をみて数を確認する年長児に対し、数を確認して数字を覚える年少児などにも分かりやすくなっていた。足し算は、3歳~9歳までの子どもがいるのでどうしても偏ってしまうが、みんなで出来る範囲(数字は1~20まで)で行っていたため、年長児には物足りない様子だった。計算については、石や、木の棒など日常生活の中、慣れ親しんでいる自然物のおはじきを使っていた。保育のすすめ方としては、教員が保育のなかで子どもの理解の進捗状況をていねいに確認するより、自分で設定したその日の獲得目標を達成することに意識が偏ることが多く、幼稚園を休むとどんどん分からなくなっていくのが現状である。

5 - 2 - 2 - 1 - 8 . 補習授業

マルキ幼稚園のみでみられたことだが、3学期になると、来年度小学校へあがる園児を対象として、午後からの約2時間、日ごろの保育ではできない範囲の高度な計算や読み書きを中心とした補習授業を行っている。

5 - 2 - 2 - 1 - 9 . 調査者のコメント

今回訪問した幼稚園は、すべて1クラスで、教員1名となっており、それに対し園児は、少ないところで28名、多いところは71名が在籍し、年齢差は5年が4園、4年が1園、3年が1園でみられた。3歳~9歳までの年齢差がある多数の子どもを同時に保育するために、幼稚園教員が共通して行っていた工夫のひとつとして、年少・年中・年長の机を別にし、実際3つのグループがあるような対応をしていた。これは、計算や読み書きの時に別の課題を与えることや、取り組みをまとめて見ることができるよう配慮した並びとなっている。しかし、教員が配慮をしても容易なことではなく、保育内容が特定の年齢に偏って他の子ども達が時間を持て余す状況がしばしばみられた。年齢の異なる子どもを同時並行して保育する技能や工夫について、対象地域の幼稚園教員が経験を交換したり、教材やリソースパーソンを通して学ぶ機会があれば、地域の特性にあった保育内容の向上に貢献するであろう。ただし、この点に関しては、教員の技能・経験ばかりではなく、別の側面として、教員が、形だけの情性の保育ではなく教室全体に配慮した保育を実行する意欲をもっているかにかかっており、幼稚園教員の動機づけの

面からも検討を要する課題である。

保育内容の範囲・多様性や異年齢の子どもたちをまとめる様々な方法や工夫は、幼稚園教員資格をもつ3教員が優れていた。資格のない教員も、言葉を教えることに関しては、それぞれ自分なりの工夫があり、意欲的な保育を行なっているため、資格のある教員よりも質の高い保育を行なっていた。しかし、例えば、外遊びや体育遊びになると、どのようなことを取り入れたらよいのか、どの程度の運動が幼児期に必要なのかを認識しておらず、保育内容が特定の年齢に偏りがちであったり、子どもがルールを覚える集団遊びがみられない状況も観察された。特に、資格のない教員に対しては、多様で広範な保育を行なう必要と、保育内容それぞれの意味が理解でき、新たな保育技術や知識を獲得する意欲を向上させ、実際の獲得を支援することが重要であろう。

また、幼稚園教員向けの指導要領⁴⁴が教育省の外郭団体であるケニア教育研究所から出版されているが、それを保有している幼稚園は1園のみであった。過去に参加した教員養成コースの授業でとったノートを参考にして保育をすすめていたり、参照する資料を持たずに保育すすめているのが現状である。この指導要領やその他の参考文献に触れる機会をつくることによって、資格のない教員ばかりでなく、すでに資格を持っている教員も時代と共に変化してゆく保育内容を新たに獲得する機会になるであろう。

5 - 2 - 2 - 2 . 教材

保育で使われている教材のほとんどが幼稚園教員の手づくりであり、その他には保護者に頼んで家庭で作ってもらったものや、保護者が集まって協力して作ったものなどもあった。子どもの手づくりおもちゃとしては、その日その場でつくることができる粘土がある。

5 - 2 - 2 - 2 - 1 . 壁面教材

材料： 穀物袋（学校用給食に使われるメイズが入っている袋）毛糸・針

作り方：描きたいものを下書きし、毛糸で刺繍する。数字・図形・アルファベット・など形づいたものや、家族・動物・天候を描いた絵画的なものも作っている。

使い方：普段は壁面として飾られているが、その保育内容によって取り外し説明、あるいはその場で説明するなど、子どもの手本となる。

5 - 2 - 2 - 2 - 2 . アルファベットカード

材料： ダンボール・マジック

作り方：ダンボール箱を適当な大きさ（同じ大きさ）に切り、アルファベットを書く。

使い方：子どもたちにカードを1枚ずつ持たせ、順番に当て自分のカードを読み上げる。

5 - 2 - 2 - 2 - 3 . タンバリン

材料： 木・ビンのフタ4~5個・針金・石

作り方：Y字になっている木を探し、葉や細い枝をとる。とった部分はヤスリなどで滑らかにする。ビンのフタは石でつぶして平らにし、真ん中に穴をあける。針金にフタを通し、Y字の木に結びつける。

使い方：主に歌を歌うときに使っていた。

⁴⁴ National Center for Early Childhood Development (1990a), (1990b), (1990c)

5 - 2 - 2 - 2 - 4 . 粘土

材料： 土・水・石

作り方：土を集め、乾燥して硬くなっている部分を石で砕く。少しずつ水を混ぜながら柔らかくしていく。硬い部分が残っている時は、また石で砕く。最初は片手で捏ねていく。水を加えて徐々に柔らかくなると、両手で捏ね何度か地面にたたきつけながら、柔らかさを統一して行く。粘土の状態を指で確認し、固いときには水を足し、柔らかい時には土を足して調整する。

5 - 2 - 2 - 2 - 5 . 調査者のコメント

例えば、上記のタンバリンは、幼稚園教員指導教本⁴⁵に記載されているものだが、ムニユニ幼稚園のみで見られ、その他の幼稚園では見られない。このことから、対象地域内の幼稚園教員が、それぞれの保育教材を発表する場をもつことによって、幼稚園での教材が多様になることを意味している。さらに、相互の刺激や協力の中から、地域の特性を生かした新たな教材が開発されることも期待できる。

5 - 2 - 2 - 3 . 食事

ムインギ県ムイ郡は、たびたび干ばつに見舞われる半乾燥地域であり、貧困地域であるため、世界食糧計画（WHP: World Food Programme）による小学校・幼稚園への給食プログラムの実施地域に指定されている。しかし、当会が、同様に給食プログラムの対象となっているヌー郡の小学校を4年間みてきたところ、食料の配布が遅れたり、配布される食料がメイズのみになることもあるなど、全面的に依存するべきではない状況にある。今回も、第3学期分の食料が供与されたのは、学校が始まって1ヶ月近く経過した10月上旬で、供与された食料は、メイズ・乾燥グリーンピース・大豆粉と脱脂粉乳の混合品・食用油であった。

調査の前半では、まだ、食料が配布されておらず、食事が全くなかったり、家から持ってこさせている状況で、後半では、今回、手厚く配給されたので、おやつのお菓子と昼食のギゼリが与えられていた。

ムニユニ幼稚園のみは、ウジを作るため、幼稚園クラスは学期ごとに各家庭からソルガム・ミレット・グリーングラムのいずれか1kgを集め、その他に砂糖代として35シリング集めており、食料供与がなくとも、子どもたちの食事を確保することを制度として取り組んでいた。このことは、学校関係者と保護者が、栄養不良児が多い実態や栄養と健康の問題などの理解が促進されれば、幼稚園での食事の充実と栄養状況の改善に寄与できる可能性を示唆している。

5 - 2 - 2 - 4 . 保健

幼稚園に通園している限りでは、元気良く何も問題はないように見えるが、簡単に視診してみると、栄養不良による腹部肥大などの典型的な身体症状がおおくみられる。その他、円形脱毛症、皮膚の異常乾燥などの症状がみられた。

幼稚園での保健教育は、食前・食後の手洗い、爪が伸びていないかどうか、清潔にしているか、服は破れていないか・ボタンがとまっているかどうかなどである。検査のやり方として、清潔にする歌をうたい、教員が1人ずつ、手（爪）・頭・服装などを調べていく。爪が伸びている子に対し、帰宅してから母に切ってもらおうよう伝え、翌日に確認する方法をとっていた。多くの幼稚園教員は、週1回、衛生検査を行っている、と聞き取り調査では回答するが、調査者が質問した翌日に衛生検査が実施されること

⁴⁵ Central and East African Baha'i: pp.250

が多いことから、あまり習慣づいていないと思われる。

子どもの健康状態や栄養状態への配慮や取り組みについては、どの園も消極的で、見落としている部分、あきらめている部分が多く感じられた。子どもたち各人の健康状態を把握するために、入園時に健康カードを集めて、予防接種の記録・身長体重・病歴を確認し、ノートに記録しているのは、マルキ幼稚園のみであった。身体計測については、マルキ幼稚園も、現在は診療所の体重計が壊れているので行なっていない、と回答しており、身体計測を行なっている幼稚園は全くなかった。

ムイ郡では、子どもの栄養状態が、ケニアの平均的な状況と比較しても悪いことから、健康状態全般にわたって悪い状況にあると推察されることから、幼稚園教員の保健に関する知識や必要性の意識を向上させ、身体計測などが実施できる体制を整えることが重要であると思われる。

5 - 2 - 2 - 5 . 施設・備品

園舎が、焼結レンガとセメントでつくられ基礎もしっかりしているのは、マルキ幼稚園とムニューニ幼稚園のみで、カティコ幼稚園は焼結レンガとセメントを使ってはいるが基礎はなく壁に亀裂もあり十分ではない、カリアコ幼稚園・キモンゴ幼稚園は仮設の園舎である。ンザマニ幼稚園は園舎がなく、屋外で保育が行われている。将来的に園舎が整備されていくことも重要であるが、子どもたちの体格にあった机イスを揃えていくことのほうが、優先的に取り組んだほうがよい課題であるが、十分な配慮がなされているのは、ムニューニ幼稚園のみであった。多くの幼稚園で机イスがなく床に座っていたり、机イスがあっても大きくて子どもは立ったままで保育を受けている。正しい姿勢で文字を書いたりできなければ、健全な発育の阻害要因となることも考えられる。

5 - 2 - 2 - 6 . 幼稚園教員

5 - 2 - 2 - 6 - 1 . 立場

対象地域においては、各幼稚園 1 名の教員が配置されているのみである。その幼稚園の多くが、小学校に併設されているが、小学校教員と幼稚園教員との連携は希薄のようである。小学校教員は、幼稚園教員を同じ教員もしくは子どもを育成する専門家とみるより、むしろ、英語を十分に使いこなせない従事的なスタッフとみることが多いようである⁴⁶。すなわち、幼稚園教員は、教員仲間というより給食調理スタッフや門番のほうに近い存在として認識しているであろう。

また、これまで、教育行政の単位であるムイ教育区やカリティニ教育区の単位で、幼稚園教員が集まる機会が設定されていない、とのことである。このため、幼稚園教員は、近隣の他の幼稚園教員が、どのような保育・教育を実践しているか、興味はあるが、実際にはお互いを知らない状況にある。

これらのことから、対象地域の一般的な幼稚園教員は、保育・教育を行なう上で、併存している小学校との縦の連携の希薄さのなかで孤立し、同時に地域内の横の連携の欠如のなかでも孤立しているといえる。

5 - 2 - 2 - 6 - 2 . 待遇

給与をみると、幼稚園教員資格を持つ教員では、マルキ幼稚園が月額 1,500 シリング（年額 13,500 シリング）、カリアコ・カティコ幼稚園が月額 1,000 シリング（年額 9,000 シリング）となっている。現在、休校期間ごとに幼稚園教員養成コースに通っているムニューニ幼稚園も月額 1,000 シリング（年額 9,000 シリング）となっている。また、教員資格がないキモンゴ幼稚園が月額 900 シリング（年額 8,100 シリング）、ンザマニ幼稚園が月額 800 シリング（年額 7,200 シリング）である。これらの給与は、子

⁴⁶ 当会が 2001 年度にヌー郡の 15 小学校で実施した教員トレーニングのなかで、小学校教員が幼稚園教員を同列にみなしていない言動や、幼稚園教員が積極的に参加できない状況が、しばしば観察された。

どもを幼稚園に通わせている保護者から、子ども一人あたりの金額で徴収され、その多くが給与として支払われる。この保護者からの徴収による給与支払いを、外部からの補助や地域社会からの現金や物品によって補完する制度はないようである。

準国家公務員である小学校教員の給与が、国家歳出として政府から支給され、月額 10,000 シリング（年額 120,000 シリング）程度であることと比較すると、幼稚園教員の給与は10分の1程度であり、非常に低額である。このため、特に幼稚園教員資格を持つ教員は、共通して給与に対する不満が強くあり、なかには職務を遂行する意欲を喪失している、と思われるケースまでみられた。

しかし、対象地域においては、公務員・県会議員・教員・援助関係者と商人を除いて、定期的な現金収入が得られる機会自体が少ないことから考えると、幼稚園教員の給与は少ないとはいえ、貴重な定期収入の機会である、ともいえる。

5 - 2 - 2 - 7 . 保護者との関係

現在のムイ郡の小学校では、校長が、小学校及び併設されている幼稚園の管理運営の責任者である。一方、保護者は、学校で使用されるチョーク 1 本から教室建設にいたる維持運営費用ならびに、制服やノート・鉛筆から高価な教科書にいたる個人費用まで、すなわち小学校教員の給与を除く全ての費用負担と労働力の提供を負っている。その保護者の負担のなかには、毎週 1 回、学校に集まって教室建設などを行なう共同作業も含まれている。これら保護者の小学校への協力は、子どもを幼稚園に通わせる時点で始まる。

ムイ郡の小学校でみられる保護者と小学校との関係をみると、保護者は学校の運営に関して、運営諸経費の負担、教室の建設、机の提供などに協力している。幼稚園については、教員の給与も保護者が負担している。このような保護者の小学校運営への協力は、主に保護者代表と校長とで構成される学校運営員会で話し合われ、特に教室建設などへの保護者の資金と労働力の提供による積極的な参加が求められる。一方、日本でみられる保護者面談のような場は設定されておらず、保護者とクラス担任である教員が子どもの教育について話し合う場は設定されていない。即ち、保護者の小学校への参加は、小学校運営に関するものに限定されている。幼稚園においても、同様な状況にあるようである。

5 - 2 - 2 - 8 . 小学校との関係

小学校の校長が、幼稚園の管理責任者でもあるため、校長の考える幼稚園の意味や小学校と幼稚園の関係が、幼稚園の在り方に大きく影響する。対象地域において、校長が共通して期待する幼稚園の役割は、まずは、小学校に子どもが上がる前に、机イスに正しく着席して教員の話をしっかり聞く学習態度を身につけさせることである。しかし、校長の発言にかかわらず、子どもの体型に配慮した小さなサイズの机イスが揃っている幼稚園は 1 園のみであることから、幼稚園を軽視する傾向が伺われる。また、当会がヌー郡で実施してきた教室建設では、新しい立派な教室が完成すると、教室の規模からすれば生徒数が多い低学年用教室に使用することが合理的であるにもかかわらず、これまで例外なく最高学年の教室として使用している。このことから小学校の最高学年を重視する傾向、すなわち幼稚園を軽視する傾向が伺われる。

また、幼稚園が、子どもの健康を守ることにつながる重要な役割を担っている、もしくは担うべきである、という校長の見解を聞くことはなかった。すなわち、幼稚園が子どもの健康を守ることに貢献する保健分野に関する機能については、小学校・幼稚園の運営管理のなかで、位置づけがなされていない、と解釈される。

5 - 2 - 3 . 家庭調査の分析

5 - 2 - 3 - 1 . 家庭調査の概要

幼稚園調査に並行して実施した家庭訪問調査では、カリティニ区 14 軒、ムイ区 13 軒の計 27 軒を訪問した。家庭訪問時間は、子どもたちの給食が終った 12 時半頃からはじめ、1 日 2~3 軒、1 軒につき 30~40 分の時間で行った。徒歩での移動に時間がかかるため、夕方 15 時半には家庭訪問を終らせるよう、村を巡回した。後半は深刻な水不足で、家庭訪問へ行っても父親は出稼ぎ、母は朝の水汲みから帰ってきておらず、待たされることも時々あった。原則として、1 人で巡回することはなく、幼稚園教員かカンダリが同行し、聞き取り調査は、スワヒリ語またはムイ郡の母語であるカンバ語をスワヒリ語に通訳して行った。

5 - 2 - 3 - 2 . 家族構成

ほとんどの家が、同じ敷地内に祖父母、もしくは兄弟と一緒に住んでいるケースが多く、隣の家も、従兄弟や親戚など、何らかの形でつながりがあった。家族構成は、おおよそ 8 人（祖父母・父母・子ども 4 人）で成り立っているケースが多かった。父親のほとんどが、モンバサやティカ、マチャコスなどに出稼ぎに行っており、ある程度お金がたまったら帰宅するようだが、実際は良くて 3 ヶ月に 1 回（3~4 日間）普通で半年に 1 回、または 1 年に 1 回という家庭もあったが、しばらく連絡がなくどうなっているのか分からない、そのまま帰ってこなくなってしまったケースもあった。残された妻は、祖母と協力し合い家事・子育てに専念し、祖父が畑仕事をしている状態だった。他には、未婚の母で自分の親や兄弟夫婦と同じ敷地内で暮らす人もいた。その場合、祖母・母・子どもが同じ家に住み、祖父はひとり住んでいる。兄弟夫婦は一緒に住み、未婚の男兄弟は一緒に住んでいる。未婚者は、男同士・女同士という暮らしかたをしていた。また、一般家庭で男の子が 12 歳くらいになると、同じ敷地内に自分の家を持ち、1 人で暮らし始める。

祖父母と一緒に暮らす形としては、同じ敷地内、または隣に住んでおり、夫の親と暮らしている人が多かった。どちらかといえば、祖母の方が長生きで、祖父は亡くなってしまったという話が何軒もあった。

5 - 2 - 3 - 3 . 水について

家事は、朝の水汲みからはじまり、掃除・洗濯・ご飯したく、薪拾い等、挙げたらきりが無い。一番厳しいのは、水汲みである。水源のほとんどが、ワジ（涸れ川）の河床に穴をほり、そこに沁み出してくる水を汲むが、乾期の真っ只中だと、なかなか水が湧いてこないため、水を確保するために半日以上、そこで待ち続けるということも頻繁にある。他には、山の湧き水、湧き水をパイプで公共の蛇口までつないでいる水、井戸水などがあった。

運搬方法としては、ロバを利用する家庭が 15 軒、歩いていく家庭が 12 軒であった。歩く場合は、ジェリカン 1 個（20 リットル入り）に紐をつけ、頭にかけて、腰で支えるというスタイルである。この場合は 1 日 2 往復、涼しい朝方と、日差しが弱まった夕方の 2 回にかけて行われる。また、ロバを使って運搬する場合には、ジェリカン 4 個をロバにつけ、1 日 1 往復、涼しい朝方に行われる。水汲み場まで片道 500m~4 km の範囲で行き来しているが、雨期になると、近くの水溜りや川に水を汲みに行くため、乾期よりは少し作業が楽になる。

主にその水は、料理・洗濯・飲み水・身体洗いに使われる。子どもの身体洗いについては、小学校 1 年生くらいまで母親に洗ってもらい、その後は自分で洗うようになる。洗い方としては、小さい子は盥の中に入れ、小さな布を使い石鹸をつけて洗うが、お金がないときは石鹸が買えずに水洗いのみになる。少し大きくなってくると、盥の外で洗うようになる。時間帯としては夕方または朝、朝の場合は、寒いのでお湯を使って洗うこともある。大体子ども 1 人にかかる時間は 3~5 分である。

飲み水については、子どもの健康に直接つながる、すなわち、不衛生な水を飲んで下痢が続けば、栄養状態が悪くなるので、家庭における飲み水の扱いは重要である。飲み水は、ジェリカンのまま保存し、ジェリカンから直接コップに移して飲んだり、ヒョウタンを利用した柄杓をコップ代わりにして飲んだり、一旦ポットにとりおいてから飲んだりするケースが多くみられた。一方、きちんと煮沸した水を口広のポリバケツに移し変え、汚れを取り除いてから飲んでいる家庭もあった。また、大きなドラム缶に汲んできた水をすべて入れ、何でもそこから使うケースもあった。水の取り扱いの違いは、家庭ごとの違いより、地域による違いが目立っているようであり、ムイ区のムニューニ幼稚園やンザマニ幼稚園の家庭訪問で目立って水の管理がよかった。なお、ンザマニ幼稚園は、唯一、保護者を対象とした専門家による保健講習会を定期的に開催している、との聞き取りが行なわれたところであり、このような保健活動と水の取り扱いが関連しているのかもしれない。

5 - 2 - 3 - 4 . 食事

家庭での食事については、朝はチャイ⁴⁷もしくはウジ⁴⁸、昼はギゼリ⁴⁹、夜はウガリ⁵⁰というのが一般家庭の食事内容だった。この場合、翌日は昼と夜を交換し、朝チャイ、昼ウガリ、夜ギゼリとなる。なぜ、昼と夜を交換して食べるのかという問いに対し、「続けると飽きてしまうから」「栄養のバランスを考えて」という答えが返ってきた。また、ある家庭では小さい子に対し、ギゼリではなくモゾコイを与えていた。ギゼリだと硬すぎて子どもたちが食べないため、メイズの外皮を臼でついて取り外したものを豆などと煮たモゾコイ⁵¹にして与えているという。ンザマニ幼稚園では、豆とご飯を一緒に炊くなど限られた食料の中で工夫をしているケースがみられた。また、ムニューニ幼稚園では、雨季が始まり、畑仕事に忙しい祖父の場合、朝チャイ、昼ウガリ・肉入りスープ、夜ギゼリで、昼食が栄養価の高い食事になっている。肉は特別であり、日常でほとんど食することがないが、妻が仕事に力が出るよう用意するらしい。1歳半～3歳くらいまでの子に対しては、ウジを多めに作っておき、食べたい時にすぐ食べることができるような環境をつくっている。比較的、若い母親の方が料理に対しての考え方が柔軟で、栄養バランスを考え様々な工夫をこなしている様子うかがわれた。調査前の雨季が干ばつで収穫が乏しかったため、調査時点では各家庭の穀物がなくなりはじめ、1日1食、あるいは1日全く食事抜きの家庭もでてきていた。

5 - 2 - 3 - 5 . 保護者の幼稚園観

「幼稚園はどのようなところか」という質問に対しての答えは「学校のようなところ」「勉強するところ」であった。他には「きちんと椅子に座って、先生の話をよく聞くところ」など小学校の準備として通わせているという反面、どのような保育内容なのかということには興味がなく、幼稚園や幼稚園教員に求めることなどは特に何も声があがらなかった。このことから幼稚園に対しての関心の低さがうかがわれる。保護者が幼稚園への協力としては、週1回の小学校・幼稚園合同の保護者作業日に、9時～13時まで校庭の草刈をはじめ、教室づくり、石や砂運びなどを行っている。

通園時期・年齢としては、4・5歳からの入園が多いが、中には病気や家庭の事情（保育料の支払い問題）で6・7歳からの入園もある。その場合、卒園は7・8・9歳になり、小学2・3年生が幼稚園クラスにいる状態となる。他には、4歳から入園したものの、途中保育料の未払いが続くと幼稚園を休み、ある程度お金の都合がつくようになった1・2年後に戻ってくるという例もある。このように家庭の事情

47 ミルクと砂糖が入った紅茶。

48 ポリッジ。粉状にした穀物・豆を粥状にし、甘味料やミルクなどを加えたもの。

49 粒状のメイズ（白トウモロコシ）や豆を水煮したケニアの代表的な主食。

50 粉状にしたメイズを湯で固めに練って蒸したケニアの代表的な主食。

51 カンバ民族などの伝統食。ギゼリとの違いはメイズの外皮をとるところにある。

が優先されてしまうのは、子どものことを考えると決して好ましい状況ではないが、その背景には幼児期の育成・成長に対して保護者ならびに地域社会全体の関心が低いことがらと思われる。

6．幼児育成事業の形成について

当会が、ヌー郡・ムイ郡において実施する事業は、地域住民のエンパワメントに依拠した総合的な地域開発事業である。主な活動分野として、対象地域における教育環境の向上、包括的な地域保健（プライマリ・ヘルスケア）システムの確立、環境の保全を想定している。これらの事業は、個別の独立したものではなく、それぞれの事業の関連性を重視しながら、共通の基盤として、地域住民や行政官が、当会と協働して事業をすすめていく過程のなかで、より「豊かな」社会を目指して主体的に取り組むようための内在的な動機を確立し、長期的視野をもった自律的な総合開発活動へと展開していくプロセスの一部として位置づけている。

したがって、幼児育成事業についても、固有のニーズに基づく、固有の手法での事業実施ではなく、当会が実施するムイ郡における地域総合開発事業の一環として位置づけ、他の事業との関連のなかで事業実施可能性を検討するものとする。

6 - 1．ムイ郡における地域総合開発事業計画

ムイ郡において、当会が 2002 年度から 2004 年度までに実施しようとする地域総合開発事業は次のとおりである。

教育：

- ・全小学校に配布した教科書の利用状況を確認するモニタリング
- ・選定した小学校の教室建設・補修への協力
- ・活動意思のある小学校への机イス補修用の道具供与と技術指導
- ・小学校における教員の動機づけワークショップ
- ・小学校への環境活動・教育の導入
- ・幼稚園への指導教本の配布
- ・幼稚園教諭への保育法および教材開発のためのワークショップ
- ・資料センターおよび図書館機能の充実

地域保健：

- ・出産適齢期の女性を対象とした基礎保健トレーニング
- ・地域の女性グループによる保健活動の支援
- ・診療所の機能と役割強化の支援
- ・地域保健士や伝統助産婦の育成
- ・幼稚園教員への保健トレーニング

環境保全：

- ・小学校への環境活動・教育の導入
- ・小学校から地域社会へ植林活動等の波及

6 - 2．幼児育成事業の枠組み

6 - 2 - 1．幼稚園教員への動機づけ

ムイ郡の幼稚園教員は、異なる年齢の子どもたちを一人で同時に保育しなければならない負担、給与が安いことへの不満、小学校との縦の連携の希薄さおよび地域内幼稚園の横の連携の欠如のなかでの孤立感、新たな保育法や教材開発など技能向上の機会の欠如、地域社会や小学校からの幼児育成に対する

過小評価など、保育に携わる意欲を減退させる要因に囲まれている。このような状況から、当会が取組む幼児育成事業において考慮する点として、幼稚園教員の保育意欲を向上につながる「動機づけ」の要素を重視する。

この動機づけは、「外因によるもの」と「内在化されたもの」とに二分して考えている。この「外因」とは、褒賞・称賛・認知⁵²など外部からの要因を受けて、教員が保育意欲を高めるよう誘導するもので、比較的取組み易く、効果が現れやすいが、単なる称賛だけでは長続きしにくく、褒賞として多くの金品が絡んでくると「現金収入が乏しく貧困な地域社会」では継続することが難しい。一方、「内在化」とは、教員が外因に頼らず、自分自身の意欲・問題意識・使命感・楽しみなど内的な理由を持つことによって「内発的」に保育意欲を高める状態を想定している。この動機づけは、「内在化」されることが重要であると考え、外部者である当会が実施事業を通じて動機づけに寄与するには、「内在化」に直接取組むことより、まずは「外因」による動機を形成し、それを「内在化」させることが重要であると思われる。

6 - 2 - 2 . 幼稚園教員間の連携の強化

ムイ郡においては、これまで実施されなかった保育に関連するテーマで幼稚園教員が集まって、意見や情報の共有・交換をしたり、共通のトレーニングを受けたり、相互学習する機会をつくること自体に大きな意味があると思われる。これらの場の共有をとおして、幼稚園教員間の協力と競争のなかで保育技能の向上と保育意欲の動機づけにつながる、地域の実状に合せた保育法や教材が開発されること、保育の意義と役割を再認識したり新たな意味づけを自ら行なうことなどが期待される。

6 - 2 - 3 . 幼稚園の役割の再定義

ムイ郡においては、子どもは栄養不良率が高く、脆弱な健康状態のため病気の罹患率が高いと推定されるが、一方、公的医療機関が2診療所のみで、その場で提供できる医療サービスには限界があり、かつ、地域社会による自律的な住民活動としての包括的な地域保健（プライマリ・ヘルスケア）制度が確立していない。すなわち、地域の子どもたちの健康を守る公的なネットワークが存在していない状況にある。このことから、地域住民の生活圏にある幼稚園が、子どもの健康を守る保健機関として機能することが特に意味がある、と思われる。しかし、地域社会や小学校からみた幼稚園は、小学校へあがるための学習態度を身につける、数字やアルファベットを覚えるための教育機関として限定的に捉えられ、その役割は過小評価されている。

したがって、幼児育成事業が実施され、幼稚園の機能が向上することによって、小学校や地域社会が幼稚園の役割を再定義することにつながるということが重要である。特に、現行のケニアの教育政策では、小学校については教員を準国家公務員として給与を保証しているのに対して、幼稚園については、施設・備品のみならず、幼稚園教員の給与も地域社会の負担となっているため、地域社会の幼稚園に対する意義づけや評価が改善されることによって、はじめて幼稚園ならびに幼稚園教員の状況改善に期待がもてることになる。

6 - 2 - 4 . 幼稚園教員の専門性の向上

全国で、専門学校に通ってトレーニングを受け正規の資格をもった幼稚園教員が半数に満たない状況は、ムイ郡においても同様である。また、ほとんどの幼稚園では教員用の保育指導要領が購入されていない。このため、過去に参加した教員養成コースの授業でとったノートを参考にして保育をすすめてい

⁵² 当会の活動においては考慮していないが「処罰」も外因による動機付けの手法として考えられる。

たり、参照する資料を持たずに保育をすすめているのが現状である。この指導要領やその他の参考文献に触れ、新たなトレーニングを受ける機会をつくることによって、資格のない教員ばかりでなく、すでに資格を持っている教員も時代と共に変化してゆく保育内容を新たに獲得する機会になるであろう。

また、前述した幼稚園が子どもの健康を守る保健機関としての機能を充実させるためには、ムイ郡の幼稚園教員が保健分野に関する専門知識や技能を向上させることや保健分野への関心を高めることが不可欠である。幼稚園教員を対象として、当会がムイ郡において実施している出産適齢期の女性を対象とした基礎保健トレーニングを適用し、さらに幼児育成に焦点をあてた専門的な保健トレーニングのカリキュラムを開発し、トレーニングを実施することが考えられる。

6 - 3 . 幼児育成事業計画

前述した幼児育成事業の枠組みを考慮しつつ、2002 年度から 2004 年度までに、ムイ郡において計画する幼児育成事業は次のとおりである。

幼稚園への指導教本の配布とトレーニング

- ・ムイ郡の全ての幼稚園へ指導教本を供与し、カリティニ区およびムイ区において、その利用法・教授法に関する 1 日間のトレーニングをムイ郡教育局幼児育成担当官の協力を得て実施する。

幼稚園教諭への保育法および教材開発のためのワークショップ

- ・カリティニ区およびムイ区において、それぞれ幼稚園教員が集まり、お互いに協力して、地域の実状にあった保育法や教材開発につながるワークショップや研究発表会などを開催する。

小学校における教員の動機づけワークショップ

- ・カリティニ区およびムイ区において、小学校での教員の動機づけワークショップを実施するに際して、幼児育成の意義、幼稚園の役割の再定義、幼稚園教員の動機づけもテーマとすることを検討する。

幼稚園教員への保健トレーニング

- ・カリティニ区およびムイ区において、幼稚園教員を対象とした 3 日間の基礎保健トレーニングと、幼児育成に焦点をあてた専門的な保健トレーニングを実施する。このトレーニングをとおして、幼稚園教員の保健分野における能力向上をはかり、地域社会ならびに小学校による幼稚園の役割の再定義につなげていくことを視野に入れる。

幼稚園を拠点とした地域の保健活動の支援

- ・幼稚園教員への保健トレーニングに並行して、地域保健事業として女性を対象とした基礎保健トレーニングおよび保健活動グループの形成を支援するが、これらの活動を統合して、幼稚園を拠点とした地域保健活動の形成も視野に入れる。具体的な活動として、地域の子どもたちを対象とした定期的な身体計測や子どもの食と栄養に関する相互学習などが考えられる。

7 . 参考文献

- Abagi, O. (1997) "Status of Education in Kenya: Indicator for Planning and Policy Formulation", Institute of Policy Analysis and Research, Nairobi
- Akatch, S. (edited) (1998) "Sub-national Planning in Kenya", Centre for Urban Research, Nairobi
- Ayako, A.B. & Katsumanga, M. (1997) "Review of Poverty in Kenya", Action-Aid Kenya and the Institute of Policy Analysis and Research, Nairobi
- Central and East African Baha'i Regional Development Committee, the (1993) "Pre-Primary Schools: A Baha'i Teacher's Guide", Baha'i Publishing Agency, Nairobi
- Issac, I. & Nagaoka, H. & Kyallo J. (1986) "Health Baseline Survey at Mukuru kwa Reuben Slum Village Nairobi South", AEF International, Nairobi
- Kenya, Republic of (1997) "Mwingi District Development Plan 1997-2001", The Government Printer, Nairobi
- Kenya, Republic of, Central Bureau of Statistics (2000) "Statistical Abstract 2000", The Government Printer, Nairobi
- Kieti, M. & Coughlin, P. (1990) "Barking, You'll Be Eaten!: The Wisdom of Kamba Oral Literature", Phoenix Publisher Ltd., Nairobi
- Maundu, Patric M. & Ngugi, Grace W. & Kabuye, Christine H. S. (1999) "Traditional Food Plants of Kenya", Kenya Resource Centre for Indigenous Knowledge, Nairobi
- Mwandime, R.K. & Proell, E. (1995) "Baseline Survey on Nutrition and Health", Integrated Food Security Programme (IFSP)/ Eastern Province, Nairobi
- National Center for Early Childhood Education, The (NACECE), Kenya Institute of Education (1999) "Guidelines for Early Childhood Development in Kenya, Kenya Institute of Education, Nairobi
- National Center for Early Childhood Education, The (NACECE), Kenya Institute of Education (1990a) "Kenya Pre-School Teachers' Activities Guide Series 1: Management and Language Activities", Kenya Literature Bureau, Nairobi
- National Center for Early Childhood Education, The (NACECE), Kenya Institute of Education (1990b) "Kenya Pre-School Teachers' Activities Guide Series 2: Play and Creative Activities", Kenya Literature Bureau, Nairobi

National Center for Early Childhood Education, The (NACECE), Kenya Institute of Education (1990c) “Kenya Pre-School Teachers’ Activities Guide Series 3:Mathematics and Environmental Activities”, Kenya Literature Bureau, Nairobi

World Bank, The (1997) “Kenya-Early Childhood Development Project (@)(Report No. PIC2223) (Project ID: KEPA34180)”, The World Bank, Washington

ユニセフ(国連児童基金)(2000) 『2001 年世界子ども白書：幼い子どものケア』ユニセフ駐日事務所、東京